

Basic research for Dialect teaching material making based on description of present age Dialect

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kato, Kazuo メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00034740

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



KAKEN

2006

105

科学研究費 基盤研究(C)・課題番号 17520295
「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」
研究成果報告書
(研究代表者 加藤和夫)

<方言学習教材シリーズ3>

みんなで学ぼう！ 鶴来ことば

2006年3月

監修 加藤 和夫

執筆 加藤 和夫
越川由美子

金沢大学附属図書館



1600-08595-4

科学研究費 基盤研究(C)・課題番号 17520295
「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」
研究成果報告書
(研究代表者 加藤和夫)

<方言学習教材シリーズ 3>

みんなで学ぼう！ 鶴来ことば

2006 年 3 月

監修 加藤 和夫

執筆 加藤 和夫
越川由美子

金沢大学附属図書館



1600-08595-4

加藤 和夫 氏寄贈

監修のことば一本書を使って下さる皆さんへー

本書『みんなで学ぼう！鶴来ことば』を手にして下さった皆さんは、鶴来の方言、あるいは自分が生まれ育った土地の方言についてどのように思っているのでしょうか。もしかしたら、方言に対してどこかで「はずかしい」とか「田舎くさい」といったマイナスのイメージを持ってはいないでしょうか。

明治時代になって、日本の国の体制が大きく変わり、日本の国を一つにまとめようとしたとき、江戸時代に全国で発達した方言がその大きな障害になると考えられました。その結果、学校教育を中心に標準語教育が進められ、それは戦前まで（一部地域では戦後しばらくも）続きました。本土の方言との違いが大きかった沖縄などでは、「方言札」という罰札まで作って、子どもたちに方言を使わせないようにという教育が行われました。そこで、掲げられたスローガンは「方言撲滅」「方言矯正」というものでした。

このような教育を受けたことで、日本人の多くの人たちは、方言は共通語（標準語）に比べて劣ったことば、悪いことば、汚いことば、といった考え方を持つようになりました。そして、地方の人たちは、自分たちの方言にコンプレックスを持ち、進んで方言を捨てるようになりました。この傾向は1960年代以降のテレビを代表とするマスメディアの発達によってますます強まり、全国各地で方言の衰退が急速に進みました。

確かに、全国どこにいても通じる共通語は便利で、今のような時代では必要なものでしょう。しかし、そのことと方言を捨てることは同じである必要はないはずです。私たちは、日本語というものについて考えるとき、もしかすると共通語のことしか考えていないということはないでしょうか。でも、考えてみて下さい。日本語とは、全国に広く通用する共通語と、今もなお全国各地で使われているさまざまな方言との総体であるはずなのです。日本語の豊かさを支えているものは共通語だけでなく方言も含めたものなのです。

わが国では、1970年代ころから、「地方の時代」といったことが言われるようになり、80年代あたりからは方言の急速な衰退という危機感も手伝って、全国的に方言見直しの動きがさかんになってきました。そして、学校教育においても、国語科や総合学習を中心に、地域の文化の一つとしての方言の価値や役割について学ぶことの大切さが理解され始めたように思います。

方言のもつ価値・役割にはさまざまなものがありますが、21世紀の日本語の担い手である小・中学生の皆さん、そして先生方には次のことを理解してもらえたらと思います。

- (1) 生活語としての方言の価値
- (2) 方言を理解し、使うことで方言に自信をもち、地域に自信をもつこと
- (3) 方言が日本語の豊かさを支えていること
- (4) 地方の文化の一部と考えること

(1)については、この本の内容を学ぶ中で、共通語では表現しにくいこと、別の言い方をすれば方言だからこそ表せることがあることを理解してもらえればと思います。方言は共通語ではぴったり置き換えられないことばが多いのではないのでしょうか。たとえば、本書の共同執筆者である越川由美子さんは、鶴来の隣の野々市町の出身ですが、体調が悪い

ことを「ものい」と言うそうです。「しんどい」でも「つらい」でもなく「ものい」ではなくては表現できない体調の悪さがあると言います。

(2)については、加藤が1994年から1995年にかけて研究者仲間と全国14都市で方言と共通語に対する意識調査を行い(加藤は金沢市を担当)、その結果を分析する中で強く感じていたことです。金沢をはじめとして北陸という地域は、全国的に見ても、自分たちの方言に愛着が薄く自信が持てていない地域のように思います。そのことは、地域に対する愛着・自信とも密接な関係があるように思いますが、自分たちのことばをよく知り、自信を持つことが、ひいては共通語との違いをよく知り、共通語の上手な話し手になれるのだと考えてほしいと思います。

(3)についてはすでに書いたとおりです。方言も大切な私たちの母語、日本語の一部なのであり、その豊かなバリエーションがすなわち日本語の豊かさそのもののなのです。

(4)については、国語科という科目を離れて総合学習や地域学習の中で感じ取ってもらいたいことの一つです。ことばも含めて、日本全体が均質化に向かっていることが地方の文化の喪失につながっていることも忘れてはならないと思います。

少しむずかしい話になってしまいましたが、この本は、以上のような思いと願いを込めて、かつて加藤の指導学生として金沢大学大学院教育学研究科国語教育専攻で学び、現在、白山市立北辰中学校で国語科の教諭として活躍している越川由美子さんとともに作りました。本書の内容は、加藤が2005年3月に金沢大学大学院教育学研究科(修士課程)の「国語学特論Ⅱ」の受講生の人たちと試作した『＜試作版＞みんなで学ぼう！金沢ことば』がモデルになっています。そしてその試作版は、岐阜大学教育学部国語教育講座助教授の山田敏弘氏が2003年3月に学生さんたちと作った『みんなで使おっけ！岐阜のことばⅠ』(非売品)という、優れた小・中学校向けの方言教材を参考にしたものです。

ここ数年、小・中学校の先生方から方言学習についてのご相談を受けることが多くなり、先生方の参考になるような方言教材の作成を考えていました。そして昨年、金沢のことばを素材とした＜試作版＞を作成したところ、県内の学校関係者、日本語教師、マスコミ等の多くの方々から予想外の評価をいただきました。できれば金沢ことば以外の教材も作成してほしいとの声も聞かれました。

幸い、2005年度・2006年度の2年間、日本学術振興会の科学研究費、基盤研究(C)に加藤の申請した「現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究」が採用され、この2年間で北陸地方の方言教材作成の機会が与えられました。本書はその研究成果の一部として作成したものです。

本書に載る鶴来ことばの資料は主に、越川さんが、白山市立北辰中学校教育相談員の森下富士男さん(50歳代、旧鶴来町出身)と、越川さんが北辰中学校で担当した「選択国語発展」を履修した18名の中学生の皆さんの協力を得て収集して下さったものです。

2005年4月から1年間、越川さんは、金沢大学教育学部と石川県教育委員会の連携に基づく研究員制度によって、方言学習を中心とした中学校国語科指導についての研究のため、定期的に加藤のもとに通って下さいました。そこで、1年間の共同研究の成果として鶴来ことばの学習教材の作成しようということになったのです。このような教材を作成することによって、現在の中学生の鶴来ことばと、50歳代の鶴来ことばを比較し、鶴来ことばの変化が見えてくるのではないかと考えました。急ごしらえということもあり、まだまだ内

容的には不十分なものですが、かつての指導学生だった越川さんといっしょに、このような方言教材をまとめられたことを嬉しく思います。小中学生の皆さんが、様々な場面で方言を調べるときの参考になれば幸いです。また、小・中学校で方言学習に関心をお持ちの先生方、地域学習に関心をお持ちの方等にご利用いただければ幸いです。特に学校の先生方には、本書を参考にご自身の手で独自の方言教材を作成していただけたらと思います。

＜本書の内容・構成＞

この本は、全体が13課で構成されています。現在の鶴来地域で使われている方言の中から、基本的かつ特徴的な内容を盛り込むべく努力したつもりです。ただ、鶴来ことばといっても、そこには世代差、地域差、個人差も当然あるでしょう。本書の10課までの会話は、共通語による会話を、旧鶴来町生え抜きの森下富士男さん（50歳代）と中学生の皆さん（10歳代）に、11課から13課までは中学生の皆さん（10歳代）だけに、普段使っている鶴来ことばに直してもらったものです。これによって、子どもたち自身の方言、さらには親世代の方言へと、興味・関心をつないでもらいたいと考えました。

各課は4ページ構成とし、1ページ目に会話文とその中に含まれる語句等の語釈、会話文の共通語訳、2ページ目に会話文の含まれる重要表現（主に50歳代が使用する鶴来ことばについて）の解説、3ページ目に重要表現を使いこなすための練習問題、そして4ページ目に「鶴来ことば豆知識」のコラムという内容になっています。

本書末尾には、参考として「石川の方言と鶴来ことば一概説」、そして「参考文献等」を載せました。

本書に対して、多くの皆さん、特に小・中学校の先生方からご意見やアドバイスをいただければと思います。本書奥付に記載の連絡先までご連絡下さい。

2006年3月 早春の金沢市角間の里にて

金沢大学教育学部教授

加 藤 和 夫

目 次

監修のことば—本書を使って下さる皆さんへ—	1
＜本書の内容・構成＞	3
目次	4
第1課 わたしバスケ部やよ。	8
会話・ことば 共通語では	8
表現 1.「～や」—名詞述語の肯定—	9
2.「～でない」—名詞述語の否定—	9
3.「～やろ」—推量—	9
練習問題	10
鶴来ことば豆知識① これって方言！？(1)	11
第2課 明日の集合、何時け？	12
会話・ことば 共通語では	12
表現 4.「～け」—疑問—	13
5.「～てくれっけ」—依頼—	13
6.「いいけ」—許可要求—	13
練習問題	14
鶴来ことば豆知識② これって方言！？(2)	15
第3課 風邪ひいてしもたがや。	16
会話・ことば 共通語では	16
表現 7.「～がや」—「～のだ」—	17
練習問題	18
鶴来ことば豆知識③ 苦しさを表す方言	19
第4課 宿題せんと寝たがやって。	20
会話・ことば 共通語では	20
表現 8.「～ん」—動詞の否定形—	21
9.「～なんだ」—過去形の否定—	21
10.「～んがんなる」—変化の否定—	21
11.「な—ん+否定」—全く～ない—	21
練習問題	22
鶴来ことば豆知識④ だら	23
第5課 21世紀美術館行ってきたうえー。いいじー。	24

会話・ことば 共通語では	24
表現 12.「～じー」—予想・期待に反することに対する気持ち—	25
13.「～うえー」—情報・認識の共有—	25
練習問題	26
鶴来ことば豆知識⑤ 変化する鶴来ことば—世代差のある表現(1)—	27
第6課 おもしろやろ？ ほーやねー。	28
会話・ことば 共通語では	28
表現 14.「ほーや」—肯定的応答詞—	29
15.「なーん」—否定的応答詞—	29
16.「ほれ」—代名詞的指示詞—	29
練習問題	30
鶴来ことば豆知識⑥ 変化する鶴来ことば—世代差のある表現(2)—	31
第7課 気一つけて行きまっしや。	32
会話・ことば 共通語では	32
表現 17.「～まっし」—軽い命令・勧誘—	33
18.「～さ」—勧誘の表現—	33
練習問題	34
鶴来ことば豆知識⑦ じゃんけん	34
第8課 どいてま。ちょっこ待ってま。	36
会話・ことば 共通語では	36
表現 19.「～ま」—強意の終助詞—	37
20.「～んなん」—義務—	37
21.「～たらいかん」—禁止—	37
練習問題	38
鶴来ことば豆知識⑧ 促音化	39
第9課 寒いさけうちんなか入っとろーさ。	40
会話・ことば 共通語では	40
表現 22.「～さけ」—原因・理由—	41
23.「～がに」—逆接—	41
24.「～や」—一般的な条件・順接の仮定条件—	41
練習問題	42
鶴来ことば豆知識⑨ 気候と方言	43
第10課 はよらとどこ行くがけ？	44
会話・ことば 共通語では	44
表現 25.「～らと」—「形容詞+に」—	45

26. 「～ない」 — 形容詞の否定形 —	45
27. 「～て」 — 形容詞のテ形 —	45
28. 「～なけな」 — 形容詞に続く否定条件「形容詞＋ないと」 —	45
練習問題	46
鶴来ことば豆知識⑩ 鶴来方言のオノマトペ	47
 第 11 課 食べれるわいや。	48
会話・ことば 共通語では	48
表現 29. 「食べれる」 — 一段活用・カ変動詞の可能動詞形 —	49
練習問題	50
鶴来ことば豆知識⑪ ゆれるイントネーション	51
 第 12 課 まだ袋に入っとるさけ、だんないやろ。	52
会話・ことば 共通語では	52
表現 30. 「～とる」 — 動作の持続と結果の残存 —	53
31. 「～とく」 — 準備・措置 —	53
32. 「～ても」 — 残念・完了 —	53
練習問題	54
鶴来ことば豆知識⑫ 新しく生まれる方言（新方言とネオ方言）	55
 第 13 課 何回も起こいたがいね。	56
会話・ことば	56
表現 33. 「出いた」 — サ行五段動詞のイ音便化 —	57
練習問題	58
鶴来ことば豆知識⑬ がんこな	59
 付録：石川の方言と金沢ことば — 概説 —	60
ちょっと難しいげんけど、読んでみてま！	
1. 全国の方言から見た石川の方言の位置	60
2. 加賀の方言	61
3. 能登の方言	61
4. 金沢ことば	63
 ◇ 鶴来ことばについて学ぶための参考文献 ◇	65
◇ 方言について学ぶための参考文献 ◇	66

みんなで学ぼう！鶴来ことば

第1課 わたしバスケ部やよ。

会 話 (50 歳代)

たかし：つよし、中学 行ったら 何部 入るがー？
つよし：卓球部や。たかしも 卓球部なんげろ？
たかし：卓球部でねーよ、野球部や。ゆうこは 何部や？
つよし：バドミントン部やろ。前 ゆーとったさけ。
たかし：ほーなんや。知らんだわ。
ゆうこ：ちごーって、わたし バスケ部やよ。
つよし：前、バドミントンやって ゆーとったやろんが？
ゆうこ：気ー 変わってんて。

会 話 (10 歳代)

たかし：つよし、中学 行ったら 何部 入るん？
つよし：卓球部や。たかしも 卓球部なんげろ？
たかし：卓球部じゃないよ、野球部や。ゆうこは 何部や？
つよし：バドミントン部やろ。前 ゆっとったし。
たかし：ほーなんや。知らんだ。
ゆうこ：ちがうし、わたし バスケ部やよ。
つよし：前、バドミントンやって ゆってなかったっけ？
ゆうこ：気が 変わってんて。

こ と ば

- ◆ 入るがー？：入るの？
- ◆ ほーなんや：そうなんだ。
- ◆ なんげろ：なのだろう。
- ◆ ちごー：ちがう。

共通語では

たかし：つよし、中学校に行ったら何部に入るの？
つよし：卓球部だよ。たかしも卓球部だろう？
たかし：卓球部ではないよ、野球部だ。ゆうこは何部だい？
つよし：バドミントン部だろう。前に言っていたから。
たかし：そうなんだ。知らなかった。
ゆうこ：違うって、わたしはバスケ部だよ。
つよし：前にバドミントンだって言っていただろう？
ゆうこ：気が変わったんだよ。

表 現

1. 「～や」 —名詞述語の肯定—

- | |
|---|
| (1) あの 子も 卓球部 や 。(あの子も卓球部だ。) |
| (2) あの 先生は 鶴来出身 や 。(あの先生は鶴来出身だ。) |

共通語の「～だ」にあたる言い方は、鶴来ことばでは「～や」となります。「～や」だけでも使いますが、「～やわ」「～やぞいね」「～やがいね」「～やわいね」などいろいろ組み合わせて使います。若い人（特に女性）は「～やよ」という言い方も使います。

2. 「～でない」 —名詞述語の否定—

- | |
|---|
| (3) あの 子、卓球部 でないよ 。(あの子、卓球部ではないよ。) |
| (4) あの 先生、鶴来出身 でねーわ 。(あの先生、鶴来出身ではないよ。) |

共通語の「～ではない」にあたる鶴来ことばは「～でない」です。「よ」「わ」とあわせて使うと、「～でないよ」「～でないわ」ですが、あいだをのばして「～でねーよ」「～でねーわ」という言い方もよくみられます。

若い人は「～じゃない」「～じゃねーよ」「～じゃねーわ」という言い方をよく使います。

3. 「～やろ」 —推量—

- | |
|---|
| (5) あの 子も たぶん 卓球部 やろ 。(あの子もたぶん卓球部だろう。) |
| (6) あの 先生、鶴来出身 やろー 。(あの先生、鶴来出身だろう。) |

はっきり分からないけれどもたぶんそうであるということを言うとき、鶴来ことばでは「～やろ」を使います。後ろをのばして「やろー」とも言います。

また、文末を上昇調のイントネーションで疑問の意味でもよく使います。

- (7) あの先生、鶴来出身**やろ？**

練習問題

練習1 下の文を例のように鶴来ことばに変えてみましょう。

例：あの子、テニス部 → あの子はテニス部や／やわ／やよ。

(1)田中さん、高校生 →

(2)あたしの妹、2年生 →

(3)森本先生、鶴来出身 →

★「～でないよ、～でないわ、～でねーよ、～でねーわ」を使っても、練習してみましょう。

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

やろ	や	でないよ
----	---	------

(1)生徒A：森本さんは先生なんけ？

生徒B：ほや、先生_____。(そうだ、先生だ。)

生徒A：泉さんも先生なんけ？

生徒B：なーん、泉さんは先生_____。(ううん、泉さんは先生ではないよ。)

(2)すぐ来る_____。(すぐ来るだろう)

(3)あの女優、鶴来出身_____？(あの女優、鶴来出身だろう？)

鶴来ことば豆知識①

これって方言！？(1)

方言には、それを話している人たちに方言だとあまり意識されないで使われているものがあります。

たとえば、「あたる」「りくつな」「ひどい」「かたい」「うまそな」「じゃまない」「きのどくな」「くどい」などは、共通語でも使われますが、鶴来では共通語とは異なる意味でも使われているものです。

例を挙げてみましょう。

「終業式の日も、給食があたるげんて。」（あたる：もらえる）

「(よくできた商品、仕組みなどに対して感心して) りくつな。」（りくつな：よくできた、巧みな）

「(体がつらそうな相手を気遣って、言葉をかけるときなどに) ひどいやろー。」（ひどい：体がつらい）

「何でもよ一分かって、かたい子や。」（かたい：聞き分けのよい、利口な）

「(相手の赤ちゃんに対して) うまそな。」（うまそな：元気そうな）

「なーん、じゃまない。」（じゃまない：大丈夫、問題ない）

「(旅行のお土産をもらって) あらー、きのどくな」（きのどくな：ありがとう）

「この肉じゃが、ちょっこしくどい。」（くどい：塩辛い）

これらは共通語と形が同じなので、共通語とは違った意味で使っていること、つまり方言だと気づかれにくいのです。北陸三県に共通に使われる「もらえる」の意味の「あたる」、感謝のことばの「きのどくな」、「塩辛い」の意味の「くどい」を除くと、ほかには石川県内に特有の意味をもつことばで、県外から鶴来にやってきた人が聞くと、最初はびっくりするにちがいありません。

共通語と同じ形、あるいは似た形で意味が異なるものに、ほかにどんなものがあるか、探してみるのも面白いですね。

第2課 明日の集合、何時け？

会 話 (50 歳代)

たかし：明日の 集合、何時け？

ゆうこ：7時半やって 先生な、ゆーとったがいね。

たかし：よーく 聞こえんかったがや。今から お菓子 買いに行くげんけど、もう
こーてもたけ？

ゆうこ：なーん。ほんなら 一緒に いこーさ。

たかし：おばちゃん、ちょっこ おまけしてくれっけ？

おばちゃん：ほな、100円ね。あんたら 明日 遠足なが？

ゆうこ：ほうや。能登島水族館 行ってくるうえー。

おばちゃん：いいじー。ほんな、気一つけて 行ってくるこっちゃ。

会 話 (10 歳代)

たかし：明日の 集合、何時やったっけ？

ゆうこ：7時半やって 先生が、ゆーとったがいね。

たかし：あんま 聞こえんかってんて。今から お菓子 買いに 行くげんけど、もう
かってしもたけ？

ゆうこ：なーん。なら 一緒に いこーさ。

たかし：おばちゃん、ちょっこ おまけ してくれんけ？

おばちゃん：ほな、100円ね。あんたら 明日 遠足なが？

ゆうこ：ほうや。能登島水族館 行ってくるげん。

おばちゃん：いいじー。ほんなら、気一つけて 行ってくるこっちゃ。

共通語では

たかし：明日の集合は何時なの？

ゆうこ：7時半だって先生が言ってたじゃないの。

たかし：よく聞こえなかったんだよ。今からお菓子を買に行くんだけど、もう買ってしまっ
たの？

ゆうこ：ううん。それじゃあ、一緒に行こうよ。

(駄菓子屋で)

たかし：おばちゃん、少しおまけしてくれる？

おばちゃん：それじゃ、100円ね。君たち明日遠足なの？

ゆうこ：そうだよ。能登島水族館行ってくるんだよ。

おばちゃん：いいねえ。それじゃあ、気をつけて行ってくるなさいよ。

表 現

4. 「～け」—疑問—

(8) あんたも 卓球部なんけ？(あなたも卓球部なの？)

(9) すぐ 来るがけ？(すぐ来るの？)

自分の分からないことや気になることを相手に聞くための文を疑問文といいます。鶴来方言では疑問文のおしまいによく「け」がつきます。

鶴来方言には他にもたくさんの疑問の言い方があります。

(10) 今、何時け／なん／なんけ／なが／ながけ？

(11) 昼、何 食べるけ／ん／が／がん／んけ／がけ／がんけ？

また、最近見られる新しいものに「～らん」という言い方があります。

(12) つよし、塾 通っとらん？

(13) つよし、塾 通っとるがん？

「～らん」は「(る) + がん」が変化したものだと言われています。

5. 「～てくれっけ」—依頼—

(14) ちょっこし、待っとってくれっけ？(ちょっと待っていてくれる？)

相手に何かをお願いするとき、「～てくれっけ」とか「～てくれんけ」言います。また、若い人はあまり使いませんが、「～てたい」ということもあります。

(15) ちょっこし、待っとってたいま。

やや丁寧な言い方で共通語の「～てください」に近いものとして「～てくだんし」という言い方があります。

(16) ちょっこし、待っとってくだんし。

この言い方も最近ではほとんど聞くことができません。人によっては「～てくたんし」と言ったり、「～てふたんし」と言ったりするようです。

6. 「いいけ」—許可要求—

(17) テレビの音、小さしてもいいけ？(テレビの音、小さくしてもいい？)

自分が何かをしようとして、相手にそれをしてもらいたいとき、鶴来方言では「いいけ」と言います。

練習問題

練習1 次の文の下線部を例のように鶴来ことばに変えてみましょう。

例：明日は給食なしなの？ →明日、給食なし け／なん／なんけ／ ？

(1)もう宿題済んだの？

→もう宿題済んだ_____？

(2)今、何してるの？

→今、何_____？

(3)妹は何歳なの？

→妹、何歳_____？

練習2 次の文を例のように鶴来のことばに変えてみましょう。

例：ちょっと、ここにいてくれる？

→（ちょっこし、ここにおってくれっけ？／おってたいま／おってくだんし）

(1)教科書見せてくれない？

→（_____）

(2)駅まで送ってくれない？

→（_____）

(3)ちょっと、待っていてくれる？

→（_____）

鶴来ことば豆知識②

これって方言！？(2)

学校でよく使うことば、特に先生たちが普通に使っていることばだと、方言だと気づきにくいものがあります。そんな例を鶴来ことばの中からいくつか見てみましょう。

- ・「～だいめ」…歌の歌詞を数えるとき、「1だいめ、2だいめ」（1番、2番）のように使われます。全国でも石川・富山両県だけの言い方で、ほかの45都道府県では「1ばん、2ばん」と言います。
- ・「かたがる」…「傾く」の意味で、「メガネかたがとるよ」「壁の絵がかたがとる」のように使われます。
- ・「校下（こうか）」…共通語で言う「学区（小・中学校の通学区域）」のことです。北陸三県、中でも石川県でよく使われています。ただ、金沢近辺では最近「校区（こうく）」に言い換える例も見られるようになりました。全国共通語の学区でなく、近畿地方を含む西日本共通語的な校区に言い換えているところが面白いですね。
- ・「めもらい」…「麦粒種（ものもらい）」のこと。
- ・「おいでる」…「いらっしゃる」の意味で、「先生がおいでる」のように使われます。金沢を中心に使われる、さらに丁寧な形の「おいでます」も方言だとあまり思われていないようです。

「おいでる」は共通語の「おいでになる」に形が似ているだけではなく、北陸地方で広く使われており、改まった場面でも使われるために方言だと気づきにくいようです。「めもらい」は共通語形「ものもらい」を普段聞く機会が少ないことと、福井県の嶺北地方から富山県までの広い範囲で使われる形であることで方言だと気づきにくいのでしょう。「かたがる」も北陸三県で使われます。また、「校下」「～だいめ」などは、学校で先生も使っていることから、方言だと知る機会が少ないようです。こういうものを「学校方言」と言うことがあります。

ほかにはどんな「かくれた方言」があるでしょうか。みんなで探してみましょう。

第3課 風邪ひいてしもたがや。

会 話（50 歳代）

ひろこ：どうしたがや？ ひどそうな 顔 して。
ふみこ：なーん、風邪 ひいてしもたがや。今朝から ものて、ものて。
ひろこ：起きとって どうむないが？ 今、はやっとるらしいさけねー。
ふみこ：おいね。うちな、ねんねから ばーばまで みんなや。
ひろこ：あらー、がんこなー。えらいこっちゃじー。
あまりもんやけど、この ぼたもち 持って行くこっちゃ。
ふみこ：あらー、きがねな。もろーてもいいがけ？
ひろこ：しんどい ときや、おたがいさまや。

会 話（10 歳代）

ひろこ：どうしたん？ ひどそうな 顔 して。
ふみこ：なーん、風邪 ひいてんて。今朝から ものくって、ものくって。
ひろこ：起きとって 大丈夫なん？ 今、はやっとるらしいさけねー。
ふみこ：おいね。うちな、弟（妹）から ばあちゃんまで みんなや。
ひろこ：うわー、ひどいなー。大変やじー。
あまりもんやけど、このぼたもち 持って行くこっちゃ。
ふみこ：あらー、悪いな。もろーても いいがん？
ひろこ：しんどい ときは、おたがいさまや。

こ と ば

- ◆ ひどい：つらい。体調が悪い。
- ◆ ものい：つらい。体調が悪い。
- ◆ ねんね：赤ちゃん。または末っ子。
- ◆ がんこ：程度がはなはだしいこと。
- ◆ ぼたもち：おはぎのこと。
- ◆ きがねな：ありがとう。すみません。

共通語では

ひろこ：どうしたの？ つらそうな顔をして。
ふみこ：いやあ、風邪をひいてしまったのよ。今朝からつらくて、つらくて。
ひろこ：起きていて大丈夫なの？ 今、はやっているらしいからねえ。
ふみこ：そうなの。私の家では、一番下の子からおばあちゃんまでみんなだ。
ひろこ：あら、ひどいね。大変なことじゃない。
余り物だけど、このおはぎ持って行きなさいよ。
ふみこ：あら、悪いね。もらってしまってもいいの？
ひろこ：つらいときは、お互いさまだ。

表 現

7. 「～がや」 — 「～のだ」 —

(18) あんたが おるさけ 行く**がや**。(あなたがいるから行く**んだ**。)

(19) なに 読んだる**がや**? (なにを読んでいる**んだ**?)

共通語の「～のだ」にあたる言い方は鶴来ことばでは「～がや」です。

また、若い人たちの中でよく使われる言い方に「～げん」「～がん」「～が」「～ん」などがあります。

(20) あんたが おるし 行く**げん**。(あなたがいるから行く**んだ**。)

(21) なに 読んだる**がん／が／ん**? (何を読んでいる**んだ**?)

「～げん」は「～がや」によく似ていますが、同じように使えない場合があります。例えば、(21)のような疑問文では「げん」は使えません。また、独り言で「なるほど、こうすればいいんだ。」と言うとき、「いいがや。」は使いますが、「いいげん。」とは言いません。

さらに新しいものとして次のような言い方もあります。

(22) 明日、遊園地 行**けん**。(明日、遊園地行く**んだ**。)

(23) 昨日、遊園地 行**てん**。(昨日、遊園地行**ったんだ**。)

(24) 今、テレビ 見と**れん**。(今、テレビを見ている**んだ**。)

(25) 今、なに 見と**らん**? (今、なにを見ている**んだ**?)

(26) 来週、ゴミ当番**ねん**。(来週、ゴミ当番**なんだ**。)

これらはそれぞれ「～く+げん」「～た+げん」「～る+げん」「～る+がん」「～な+げん」という組み合わせで、「げん」「がん」の前にくるものと「げん」「がん」がくっついてできた新しい形だと考えられています。

練習問題

練習1 次の語を組み合わせ「がや」を使った鶴来ことばの文をつくってみましょう。

例：あさって 温泉 行く。 → あさって温泉行くがや。

(1) 今日 図書館 行く。

→

(2) これから 夕飯 食べる。

→

(3) 夕飯 何 食べる。

→

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

がや	げん	が	がん
----	----	---	----

たかし：冬休み どこ 行く_____？（冬休みはどこに行くの？）

つよし：山代温泉に 行く_____。（山代温泉に行くんだ。）

練習3 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

けん	てん	れん	らん	ねん
----	----	----	----	----

たかし：何 しと_____？（何しているんだ？）

つよし：家族で 白山登山に い_____。（旅行で北海道いくんだ。）

今、準備 しと_____。（今、準備しているんだ。）

去年も いっ_____けどね。（去年も行ったんだけどね。）

うちの 恒例行事_____。（うちの恒例行事なんだ。）

鶴来ことば豆知識③

苦しさを表す方言

共通語の「苦しい」「つらい」にあたるような、苦痛や疲労感を表すことばとして、鶴来では次のようなものが使われています。

「なんやら ものいさけ、先に 休ましてもろ一わ。」

風邪をひいて熱が出たときなど、病的な苦しさを鶴来では「ものい」を用いて表現します。走って息が切れるときなどの疲労感ではなく、頭がぼーっとしたり、体がだるかったり、咳が出たりするときに使うのが「ものい」です。

「遅刻するかと 思て 4階まで 駆け上がったら えろ一なったわ。」

病気以外も含んで幅広い苦しみを表すものとしては、「えらい」「ひどい」「きつい」「しんどい」などの表現があります。これらは「えっれー」「ひっでー」「きつついー」「しんでー」のように促音化して使われると、より苦しそうに聞こえます。このほか、能登地方で使われる「たいそい」「ちきない（てきない）」や、富山県で広く使われている「だやい」を金沢で聞くこともあります。

第4課 宿題せんと寝たがやって。

会 話 (50 歳代)

正信：宿題 してきてんろ、見せてま。

兵衛：なもや。なんやら ものかったさけ、宿題 せんと 寝たがや。

正信：ほんながか。たいそうやったなー。

そんでも よわったなー。

お前に 見してもろーと 思ーとったさけ、なーん せなんだがや。

兵衛：だらんこと いうとるめ。いつまでも ほんなことやったら、じきに 自分で
なんも できんがんなっぞいや。しっかり せーま。

正信：ほーやな……。

会 話 (10 歳代)

正信：宿題 してきてんろ、見せてくれんけ。

兵衛：うーん。なんか ものかったから、宿題 しんと 寝てん。

正信：そうなんや。たいへんやったんやね。

でも こまったー。

お前に 見してもらおーと 思ーとったから、なんも せんかったし。

兵衛：だらなこと いっとなま。いつまでも そんなことやったら、じきに 自分で
なんも できんがんなるよ。しっかり しんか。

正信：そーやね……。

こ と ば

- ◆ さけ：から
- ◆ たいそう：たいへん
- ◆ よわる：こまる
- ◆ だら：ばか

共通語では

正信：宿題してきたんだろ、見せてよ。

兵衛：ううん。なんだか体調が悪かったから、宿題しないで寝たんだって。

正信：そうなんだ。たいへんだったね。

それにしてもこまった。

お前に見せてもらおうと思っていたから、何もやらなかったんだよ。

兵衛：ばかなことを言っているんじゃないよ。いつまでもそんなことだったら、
そのうち自分で何もできないようになるよ。しっかりしろよ。

正信：そうだね……。

表 現

8. 「～ん」—動詞の否定形—

(27) 最近 太り気味やさけ、もう **食べん**わ。

(最近太り気味だから、もう食べないよ。)

(28) 宿題 **しん**とこーっと。(宿題しないでこーっと。)

鶴来ことばでは、動詞「食べる」「書く」などの否定形は「食べん」「書かん」、「見る」「寝る」などの否定形は「見ん」「寝ん」となります。「する」の否定形は「せん」または「しん」（こちらの方が新しい言い方）です。

9. 「～なんだ」—過去形の否定—

(29) 客が 一人も **こんだ**。(客が一人も来なかった。)

(30) 昨日、宿題 **しんだ**。(昨日、宿題しなかった。)

動詞「来る」「書く」などの過去形の否定は「こんだ」「書かんだ」となります。また、若い人たちの中には「こんかった」「書かんかった」という言い方も見られます。「する」の過去形の否定は、同じように「しんだ」「せんだ」や「しんかった」「せんかった」という言い方も聞かれます。

(31) 客が 一人も **こんかった**。

(32) 昨日、宿題 **しんかった**。

10. 「～んがんなる」—変化の否定—

(33) テレビから もっと 離れて 見んと、目— **見えんがんなる**よ。

(テレビからもっと離れてみないと、目が見えないようになるよ。)

変化の否定「～ないようになる」を鶴来では「～んがんなる」もしくは、「～んがんになる」「～んがになる」と言います。また、若い人たちの中では「～んくなる」と言い方がよく聞かれます。

(34) テレビから もっと 離れて 見んと、目— **見えんくなる**よ。

11. 「なーん＋否定」—全く～ない—

(35) うちの 子ら、**なーん 勉強しんぞい**ね。

(うちの子たち、全く勉強しないんだよ。)

鶴来ことばの「なーん＋否定」は、共通語「何も～ない」「全く～ない」という意味で使われます。

練習問題

練習1 次の下線部を例のように鶴来のことばに変えてみましょう。

例：誰も来なかった。 ⇒ (こんだ)

(1)寝坊して朝ごはんを食べなかった。

→ ()

(2)家の手伝いをしなかった。

→ ()

(3)日曜日は学校に行かない。

→ ()

練習2 次の文を鶴来のことばに変えてみましょう。

(1)その音はだんだん聞こえないようになった。

→ ()

(2)そのうち自分で何もできないようになるよ。

→ ()

練習3 下線部に () 内の意味の鶴来ことばを書きましょう。

(1)たくみ：お金 足りっかなー。

父親：_____ (何も心配しなくてもいいよ)。

(2)はるき：予習してきたがか？

こうき：_____ (少しもしてこなかったよ)。

鶴来ことば豆知識④

だ ら

「だらんことゆーとんなま！」口げんかなどで怒りが頂点に達したときに、鶴来の人の口から、このようなことばが発せられることがあります。「だら」は「ばか」の意味で、全体では「ばかなことを言うんじゃないよ」ということになりますが、「いい加減にしろ！」「ふざけるな！」の気持ちをこめて、強い口調で言うより効果的です。主に男性が使う表現ですが、女性が使うとより迫力があるかもしれません。

一方、同じ「だら」でも、仲のいい友だち同士や家族の間で言われる「だらやなあ」や、親が子ども叱るときなどに言う「だらぶち！」は、親しみを込めた優しい戒めの表現です。

「だら」は北陸では石川・富山両県で広く使われていますが、日常よく使うためか、鶴来あたりの代表的方言の一つとしてよく紹介されます。

「だら」のようなことばを罵倒語と言いますが、鶴来ではほかに「ばか」や「あほ」も使われます。厳密には言えませんが、鶴来ではこの三つを微妙なニュアンスの違いで使っているようです。「ばか」や「あほ」では言い表せない強い怒りや、逆に親しみをこめた怒りを、鶴来の人には「だら」をうまく使って表現しています。

鶴来の年配の人には、「だら」が鶴来辺の独特の方言だと思っている人が多く、真宗王国と言われる信仰心の強い土地柄のせいもあって、「だら」や「だらぶち」が仏教の「陀羅尼教」「陀羅尼仏」に由来すると信じている人もいます。しかし、鶴来の「だら」は、もとは京都あたりで生まれた「ばか」を意味する「たらず（足らず）」が、北陸に伝わるうちに「たらず」→「だらず」→「だら」と形を変えたものだと考えられています。なぜなら「だら」に似た言い方は、石川・富山だけでなく、新潟の一部（「たらず」）や西の鳥取・島根（「だらず」）、九州の一部などに分布し、このことばが京都を中心に周辺に広がったものであることを示しているからです。

第5課 21世紀美術館行ってきたうえー。いいじー。

会話（50歳代）

ゆうこ：冬休み どっか 行ったけ？
たかし：なーん、ずっと こたつで みかん くーとったわ。
ゆうこ：私、21世紀 美術館 行ってきたうえー。
たかし：いいじー。わし、まだ 行っとらんげんて。
ゆうこ：建物な すっごい きれいやうえー。中に カフェまで あるうえ。
たかし：ほーなんや。りくつなー。
ゆうこ：ロボットみたいながも おるうえー。
たかし：すげーじー。他には 何が あるがん？
ゆうこ：入って すぐんところに 中に 人が 歩いとる プール あるうえー。
たかし：うーん、やっぱし 行ってみんと だちゃかな。

会話（10歳代）

ゆうこ：冬休み どっか 行った？
たかし：ううん、ずっと こたつで みかん 食べとったわ。
ゆうこ：私、21世紀美術館 行ってきてんて。
たかし：いいぜ。おれ、まだ 行ってねーげんて。
ゆうこ：建物 すっごい きれいやったわ。中に カフェまで あるげんよ。
たかし：そーなんや。すごいなー。
ゆうこ：ロボットみたいながも おるげんて。
たかし：すげー。他に 何が あるがん？
ゆうこ：入って すぐんところに 中に 人が 歩いとる プール あるげん。
たかし：うーん、やっぱ 行ってみんと だめやな。

ことば

◆ りくつな：立派だ。便利だ。巧みだ。共通語では

ゆうこ：冬休みどこか行ったの？
たかし：ううん、ずっとこたつでみかん食べていたよ。
ゆうこ：私は21世紀美術館行ってきたよ。
たかし：いいなあ。おれはまだ行ってないんだ。
ゆうこ：建物がすごくきれいだよ。中にカフェまであるんだよ。
たかし：そうなんだ。すごいなー。
ゆうこ：ロボットみたいなものもあるよ。
たかし：すごいなあ。ほかには何があるの？
ゆうこ：入ってすぐのところの中に人が歩いているプールがあるよ。
たかし：うーん、やっぱり行ってみないとだめだな。

表 現

12. 「～じー」 —予想・期待に反することに対する気持ち—

- (36) あれ、今日 元気 ない**じー**。(あれ、今日は元気ないね。)
(37) 高そうな 服 着とる**じー**。(高そうな服きてるね。)
(38) 昨日 来んかった**じー**。(昨日来なかったね。)

「～じー」は自分にとって意外なことについて述べる時、話し手の気持ちがこめられた表現です。「～じー」は「心配」「不安」「羨み」「皮肉」「不満」など場面に応じてさまざまな気持ちをこめて使われます。

ただし、例えば「あ、(自分の) くつしたに穴あいとるじー。」のように、意外であったとしても自分のことについて「～じー」は使いません。

13. 「～うえー」 —情報・認識の共有—

- (39) 隣、留守や**うえー**。(隣、留守なんだよ。)
(40) パソコン 買った**うえー**。(パソコン買ったんだよ。)
(41) 明日 休みやろ？いい**うえー**。(明日休みでしょ？いいなー。)

「～うえー」は聞き手に自分の持っている情報・認識を伝えて、その情報・認識を聞き手にも持って欲しいという気持ちがこめられた表現です。

特に自分に関することについて「～うえー」を使う場合、「いいでしょ」「うらやましいでしょ」という自慢のニュアンスがあります。また、反対に「うらやましいな」という気持ちをこめた「いいうえー」という言い方もあります。

本来、高年層の「～わい」が変化して中年世代以下で使われていましたが、鶴来の中学生世代ではあまり使われないようです。

練習問題

練習1 次の下線部には「じー」と「うえー」のどちらが入るでしょうか。意味をよく考えて入れてみましょう。

- (1)髪、切ったー？ かわいい_____。
- (2)土日、U S J 行ってきた_____。
- (3)大丈夫？ 顔色 悪い_____。

練習2 次の空欄には「じー」と「うえー」のどちらが入るでしょうか。意味をよく考えて入れてみましょう

- (1)みさき：ほれ、何やー？
さくら：電子辞書。昨日 買った_____。
みさき：えー、いい_____！いい_____！カッコいい_____！
- (2)はるか：今日、お弁当の日やね。わたし、自分で作ってきた_____。
りん：ほーなん！？すごい_____。

鶴来ことば豆知識⑤

変化する鶴来ことば—世代差のある表現(1)—

「夏休みなんするがや？」(83 歳男性)

「夏休みなんするがん？」(46 歳女性)

「夏休みなんすらん？」(23 歳男性)

これらは、どれも意味は同じで「夏休みは何をするのだ？」ということを聞いています。しかし、おしまいの部分が「するがや?」「するがん?」「すらん?」と世代によって違います。そして、これらの質問に対する答えは次のようになります。

「海水浴するがや。」(83 歳男性)

「海水浴するげん。」(46 歳女性)

「海水浴すれん。」(23 歳男性)

これらも「海水浴をするのだ。」という同じ意味なのですが、やはりおしまいの部分が違います。これによって、共通語の「のだ」にあたる鶴来ことばの「がや」が、世代とともに変化していく様子がわかります。

もともと「がや」は肯定にも疑問にも同じ形で使われましたが、「んや」という言い方に影響をうけて「がんや」に変化したり、「や」が落ちて「が」になったり、発音が変化して「げー」になったりしながら、やがて「がん」が生まれ、「げん」も生まれました。「がん」は疑問専用の形で、「げん」は疑問では使えません。

「がん」はさらに、その直前の音とくっついて「出らん(出る+がん)」「行かん(行く+がん)」のような新しい形を生み出し、「げん」からも「出れん(出る+げん)」「行けん(行く+げん)」「来てん(来た+げん)」のような形も生まれています。

このように、地方のことばが共通語の影響を受けて消えていく一方で、その地方で独自の変化をとげていくことばもあります。これから鶴来ことばは、どんなふうに変化していくのでしょうか。

第6課 おもしろやろ？ ほーやねー。

会 話 (50 歳代)

ひろこ：どうやったら 兼六園 行けるがやろ。
つよし：あこの バス停から 「兼六園下」 ちゅーがに 乗りゃ いいがや。
ひろこ：よー 知っとるじー。このへん よー 来るがけ？
つよし：なーん。去年、百万石まつりで 来てんで。
ひろこ：いいじー。私も 見に 行ってみたいわ。
つよし：ほんな 一緒に 行こーさ。今年の 利家役は 赤井英和さんがや。
確か ファンやったんねえが？
ひろこ：おいね、家族 そろって 大ファンやわ。ほんな 妹と お母さん 誘っても いいけ？
たくさん おったほうが おもしろやろ？
つよし：ほーやねー。あ、ほの バス 乗らんなんげよ。

会 話 (10 歳代)

ひろこ：どうやったら 兼六園 行けるんかな。
つよし：あこの バス停から 「兼六園下」 ってゆーのに 乗れば いいげんよ。
ひろこ：よく 知っとるじー。このへん よく 来るん？
つよし：ううん。去年、百万石まつりで 来てんで。
ひろこ：いいじー。私も 見に 行ってみたいわ。
つよし：そんなら 一緒に 行こーさ。今年の 利家役は 赤井英和さんねんよ。
確か ファンやったやろ？
ひろこ：うん、家族 そろって 大ファンねん。それなら 妹と お母さん 誘ってもいいけ？
たくさん おったほうが おもしろやろ？
つよし：ほーやねー。あ、その バス 乗らんなんよ。

共通語では

ひろこ：どうしたら兼六園に行けるんだろう。
つよし：あそこのバス停から「兼六園下」というのに乗ればいいんだよ。
ひろこ：よく知っているねー。このあたりによく来るの？
つよし：ううん。去年、百万石まつりで来たんだよ。
ひろこ：いいねえ。私も見に行ってみりたいな。
つよし：それなら一緒に行こうよ。今年の利家役は赤井英和さんだよ。確かファンだっただろう？
ひろこ：うん、家族そろって大ファンだよ。それなら妹とお母さんを誘ってもいい？
たくさんいたほうが楽しいでしょ？
つよし：そうだね。あ、そのバスに乗らなければいけないよ。

表 現

14. 「ほーや」－肯定的応答詞－

- (42) A:寒いこっちゃねー。 B:**ほーや**ね。
 (寒いことだねー。) (そうだね。)
- (43) A:今日、忙しかったけ？ B:**おいね**、えろーなったわ。
 (今日、忙しかった？) (そうなんだよ、つかれてだるくなったよ。)

相手の話に共感して相づちを打つとき、鶴来では「ほーや」と言います。短く「ほや」と言ったり、くり返して「ほやほや」と言ったりもします。

また、「おいね」という表現もよく使います。男性は「おいや」をよく使います。

- (44) A:昨日、あんたんとこ泥棒入ったがやて？ B:**おいね**、**ほや**とこと。
 ベテランになると、このように組み合わせて使うこともできます。

15. 「なーん」－否定的応答詞－

- (45) A:ほんな 薄着で 寒ないかいね？ B:**なーん**、暑がりねんて。
 (そんなに薄着で寒くないの？) (うん平気、暑がりなんだよ。)
- (46) A:明日で テスト 終わりけ？ B:**なーも**、明後日までや。
 (明日でテスト終わり？) (いいや、明後日までだよ。)

「ほーや」とは反対に相手の話に対して「いいえ」「違うよ」と言うとき、金沢では「なーん」を使います。他にも「なーも」と言ったり、短く「なも」と言ったりします。

16. 「ほれ」－代名詞的指示詞－

- (47) **ほの**子、どこの子や？ (その子、どこの子だ？)
- (48) **あこの** マンションに 住んどるげんて。
 (あそこのマンションに住んでいるんだって。)

鶴来ことばでは、人・もの・場所を指すとき、次のようなことばを使います。

	コ系	サ系	ア系	ド系
もの	これ	それ／ ほれ	あれ	どれ
もの・人	この	その／ ほの	あの	どの
場所	ここ	そこ／ ほこ	あこ	どこ

鶴来では「それ」や「その」の代わりに「ほれ」や「ほの」を使います。また、共通語の「あそこ」にあたる場所を指すとき、「あこ」を使います。

練習問題

練習1 下線部を例のように鶴来ことばに変えてみましょう。

例：そのバス →(ほの)バス

(1) あそこの店 →()の店

(2) そこの傘 →()の傘

(3) その子 →()子

(4) そうだそうだ →()

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

おいね

なーん

ほや

なーも

(1)りょうた：ほの荷物、おまえのけ？

かいと：_____、おれのや。あこの本はおまえのけ？

りょうた：_____、おれのでない。

(2)はるな：昨日の宿題やった？

ほのか：_____、やらなんだわ。はるなは？

はるな：_____、やっとなん。

(3)父親：今日の遠足、よ一歩いたけ？

かいと：_____、えろ一なつたわ。

鶴来ことば豆知識⑥

変化する鶴来ことば—世代差のある表現(2)—

「悲しいさかい泣くがや。」 (78 歳女性)

「悲しいさけ泣くがや。」 (83 歳男性)

「悲しいし泣くげん。」 (23 歳男性)

共通語の「のだ」にあたる鶴来方言「がや」「げん」の世代差については前掲のコラム「変化する鶴来ことば—世代差のある表現—(1)」でも書きましたが、ここでは世代差のある表現をもう一つとりあげたいと思います。上の鶴来ことばの例はともに「悲しいから泣くのだ」の意味ですが、「から」にあたる部分がそれぞれ違っています。鶴来で使われている理由・原因の接続助詞「から」にあたる方言は「さかい(に)」「さけ(に)」「し」です。「さかい」はもともと近世の上方語ですが、現在でも関西を中心に広い範囲で使われています。「さけ」は「さかい」から変化した形です。関西から北陸に伝わった接続助詞の「さかい」は、かつての北前船ルートに沿うように、福井から日本海側を北上して石川、富山、新潟、山形、秋田、そして青森や岩手の一部にまで達して、その形も、地域により「さけ」「すけ」「しけ」のように変化しています。

「雨が降りそうやさかい行かんわ。」 (51 歳男性)

「雨降りそうやし行かんわ。」 (46 歳女性)

鶴来では高齢層は「さかい」または「さけ」しか使いませんが、中年層では「さかい」「さけ」に「し」が混ざります。さらに若い20代・10代になると、「さかい」「さけ」をほとんど使わず、「し」または共通語と同じ「から」をよく使います。

ぜひ、みなさんのまわりにいる様々な世代の人の話し方を聞いて確かめてみてください。

第7課 気一つけて行きまっしや。

会 話（50 歳代）

ふみこ：あけましておめでとう。初もうでに 白山さん 行こうさ。

たかし：ほんな、ちょっこ 待っとってま。

祖 母：雪 降ってきたさけ、気一つけて 行くがやぞー。

たかし：せっかくやし、おみくじ 引かんけ？

ふみこ：ほーやね。ほんな、先に 引くこっちゃ。

たかし：なんや 末吉かいや。やっきねーぞいや。

ふみこ：あ、大吉や。おみくじも 引いたし、そろそろ 帰ろうさ。

たかし：ただいま……。なんか すーすー するな。

祖 母：ひどそうやな。あんた 風邪ひいたがんねーけ？

たかし：新年早々、ほんと やっきねーぞいや。

会 話（10 歳代）

ふみこ：あけましておめでとう。初もうでに 白山さん 行かんけ？

たかし：じゃあ、ちょっと 待っとってや。

祖 母：雪 降ってきたし、気一つけて 行ってこんか。

たかし：せっかくやし、おみくじ 引かんけ？

ふみこ：そーやね。じゃあ、先に 引かんか。

たかし：なんや 末吉かいや。やっきねーぞいや。

ふみこ：あ、大吉や。おみくじも 引いたし、そろそろ 帰らんけ。

たかし：ただいま……。なんか すーすーするな。

祖 母：ひどそうやじ。あんた 風邪 ひいたんじゃないがん？

たかし：新年早々、まじ やっきねーぞいや。

こ と ば

- ◆ 白山さん：「しらやまさん」と読む。白山市鶴来町にある白山比咩神社。^{しらやまひめ}
- ◆ やっきねー：やる気がない。運が悪いことなどをなげく表現。
- ◆ すーすーする：寒気がする。
- ◆ ひどい：体の調子が悪い。

共通語では

ふみこ：あけましておめでとう。初詣に白山比咩神社に行こうよ。

たかし：それじゃあ、ちょっと待っていてよ。

祖 母：雪が降ってきたから、気をつけて行きなさいね。

たかし：せっかくだから、おみくじを引かないかい？

ふみこ：そうだね。それじゃあ、先に引きなさいよ。

たかし：なんだ末吉かい。ついてないなあ。

ふみこ：あ、大吉だ。おみくじも引いたし、そろそろ帰ろうよ。

たかし：ただいま……。なんだか寒気がするなあ。

祖 母：つらそうだね。あなた風邪をひいたんじゃないか？

たかし：新年早々、本当についてないなあ。

表 現

17. 「～まっし」—軽い命令・勧誘—

(49) あんたも **がんばりまっし**。(あなたもがんばりなさいよ。)

(50) お茶 入れるさけ、**よってきまっし**。

(お茶入れるから、よっていきなさいよ。)

「～まっし」は「～まさる」(「～なさる」の意味)ということばの命令の形で、もともとは「～なさい」と相手に行動をうながす軽い命令の表現でしたが、最近では「～しよう」という勧誘の意味でも使われるようになっていきます。「～まっし」は動詞の種類によって、終止形に続く「書くまっし」のようなもの(五段動詞)と、「起き」「し」の形に続いて「起きまっし」「しまっし」のようになるもの(一段動詞、サ変動詞)がありましたが、五段動詞は、最近では「書きまっし」のような、連用形に続く言い方が多くなっています。

(51) この ノートに **書くまっし／書きまっし**。

(52) ごはんの 前に **宿題 しまっし**。

また「～こっちゃ」という言い方もあります。

(53) もう 遅いし、うちに **泊まっていっここっちゃ**。

(54) 明日 早いさけ、もう **寝っここっちゃ**。

18. 「～さ」—勧誘の表現—

(55) 一緒に 映画 見に**行こうさ**。(一緒に映画を見に行こうよ。)

(56) 明日、公園で **遊ぼうさ**。(明日、公園で遊ぼうよ。)

友だちなどに「～しようよ」と言うとき、鶴来では「～さ」を使います。「食べる」「する」の「～さ」の形は「食べようさ」「しようさ」です。「食べよっさ」「しよっさ」と言ったり、「食べよさ」「しよさ」と言うこともあります。

また、「～しない？」と疑問の形で誘うとき、「～け」を使います。

(57) 一緒に 映画 **行かんけ？**

(58) 明日、公園で **遊ばんけ？**

練習問題

練習1 下線部を鶴来ことばに変えてみましょう。

(1) 今度の 日曜日、一緒に 映画を 観に行こうよ。

→()

(2) 明日、みんなで 遊ばない？

→()

(3) 水ギョーザ 作って 食べようよ。

→()

練習2 下線部を鶴来ことばに変えてみましょう。

(1) もう 遅いし、寝なさいよ。

→()

(2) 気いつけて 行きなさいね。

→()

(3) 何でも 食べなさいね。

→()

鶴来ことば豆知識⑦

じゃんけん

「グー」「チョキ」「パー」の組み合わせで勝ち負けを争う遊びを「じゃんけん」と言います。この遊びは「じゃんけんぽん」のかけ声とともにみんなが一斉に手を出しますが、このかけ声は地域によっていろいろな種類があるようです。

「いんじゃんほい」「ちっけった」「じっけった」「じゃいしんほい」「どっこいし」
「いんちゃんし」「わんちいちい」「じゃらけつほい」「じゃんけんし」「あいけんじ
やす」「けんのでもってほい」「あいけんぼい」

次のような長い、そして楽しいかけ声もあります。

「じゃんけんちかほかヨーロッパはさーむいよ」

「じゃんけんでほーいのさっぽろびーるのへのかっぱ、えびせん」

「じゃんけんじゃがいもさつまいも」

「最初はグー、またまたグー、いかりや長介、頭はパー、正義は勝つ、じゃ
んけんぼん」

また、ドッジボールやサッカーなどで、グループを二つに分けるときにするじゃんけんのかけ声にもいくつかの種類があります。「グー」と「パー」を使うものに、「ぐっぱで組つーくろ」「ぐーぱーじゃんけん、じゃんけんほい」、「グー」と「チョキ」を使うものに「ぐーきーぐーきおともんやす」（「おともん」はもとは「ぐー」や「きー」で同じになった者、つまり「合あーた者」から）などがあります。

さらにトランプの「ばばぬき」などで、ゲームを始める人を決めるときにするじゃんけんには「なんでもひとつは右まわり」というかけ声があります。

じゃんけんから発展した遊びとして次のようなものがあります。

- (1) じゃんけんをする。
 - (2) 勝った者（A）が、かけ声と共に好きな手（グー、チョキ、パー）を出す。
 - (3) 負けたもの（B）は、Aのかけ声に合わせて手を出す。
- ・ Aの手とBの手が同じ（あいこ）になった場合 ⇒【Aの勝ち】
 - ・ Aの手とBの手が違う場合 ⇒【（2）に戻って繰り返し】
 - ・ Aがかけ声を間違えた場合 ⇒【Bの勝ち】

この遊びでAは「グー」「チョキ」「パー」に合わせてそれぞれかけ声を使いますが、そのかけ声にも種類があります。1つ目は「ぐろ（グー）」「みっき（チョキ）」「べて（パー）」です。例えば、じゃんけんで「パー」を出して勝って、Aが「グー」「パー」「チョキ」という順で手を出した場合、「じゃんけんぼん、べってぐーろ、ぐろべって、べてみっき」というかけ声になります。2つ目は「ぐりん（グー）」「ちょりん（チョキ）」「ぱりん（パー）」です。これは「グリンピース」という名前の遊びでルールは同じです。さきほどと同じ条件の場合、「グリンピース（最初のじゃんけんのかけ声）、ぱりんぱりんぐりん、ぐりんぐりんぱりん、ぱりんぱりんちょりん」というかけ声になります。

このように同じ「グー」「チョキ」「パー」でもいろいろな呼び名があり、「じゃんけん」のかけ声もさまざまです。今回とりあげたのはそのごく一部です。皆さんの「じゃんけん」と同じものはありましたか？また、世界にはもっとさまざまな「じゃんけん」が存在します。インターネットなどを使って外国の「じゃんけん」も調べてみると面白いですね。

第8課 どいてま。ちょっこ待ってま。

会 話 (50 歳代)

母 親：そうじ せんなんし、どいてま。

たかし：もー ゲーム 終わるし、ちょっこ 待ってま。

祖 父：えーま。大そうじ 終わらんがいや。はよ どけま。

たかし：やつきねーなー。ほんなら、終わったら 続き やるげんしなあ。

母 親：ほんな、この むたむたなん、ちゃんと 片づけんなんげぞ。

祖 父：見とらんと おもて、また ゲームしたら だめやぞ。

たかし：この 窓も ふかんなんけ？

祖 父：おいや、外側も ふかななんぞいや。

母 親：もう、ソバ できとるぞいね。

のびてしも一さけ、はよ 食べっこっちゃ。

会 話 (10 歳代)

母 親：そうじ せんなんし、どいてや。

たかし：もー ゲーム 終わるし、ちょっと 待ってや。

祖 父：あーもー。大そうじ 終わらんがいや。はよ どけま。

たかし：やつきねーなー。そんでも、終わったら 続き やらしてや。

母 親：そんじゃあ、この ちらかつとるの、ちゃんと 片づけんなんよ。

祖 父：見てないと思って、また ゲーム したら いかんぞ。

たかし：この 窓も ふかんなんけ？

祖 父：そうや、外側も ふかんなんよ。

母 親：もう、ソバ できとるよ。

のびてしまうから、はやく 食べまっし。

こ と ば

◆ ちょっこ：ちょっと。すこし。

◆ えーま：いらだちの表現。ええい。

◆ むたむた：部屋などがちらかっている様子。

共通語では

母 親：掃除しなければいけないから、どいてよ。

たかし：もうゲームも終わるから、ちょっと待ってよ。

祖 父：ええい。大掃除が終わらないじゃないか。早くどけよ。

たかし：ついてないなあ。それでも、終わったら続きやらせてよ。

母 親：それじゃあ、このちらかっているのを、ちゃんと片づけなければいけないよ。

祖 父：見ていないと思っ、またゲームをしてはいけないんだぞ。

たかし：この窓もふかなければいけないの？

祖父：そうだ、外側もふかなければいけないぞ。

母親：もう蕎麦ができていますよ。のびてしまうから、早く食べてよ。

表現

19. 「～ま」—強意の終助詞—

(59) はよ、食べまっし**ま**。(早く、食べなさいよ。)

(60) もっと力入れて押せ**ま**。(もっと力入れて押しなさいよ。)

文のおしまいに付く「ま」は意味を強める働きをします。例えば「食べまっし」は、やさしく相手に食べることを勧める言い方ですが、「食べまっしま」と言うと、命令するような言い方になります。同じような意味で「食べてま」という言い方もあります。

また、「走る」「押す」などの動詞の命令形に直接「ま」をつけて「走れま」「押せま」と言うと、強めの命令になります。

「する」の「～ま」の形は「せーま(しーま)」「しろま」です。

(61) お前 いいかげんに せー**ま**。

20. 「～んなん」—義務—

(62) 宿題 やら**んなん**よ。(宿題やらなければいけないよ。)

(63) 6時まで 帰ら**んなん**げんて。

(6時までにかえらなければいけないんだよ。)

「～なければならない」と必要や義務があることを言うとき、鶴来ことばでは「～んなん」と言います。また、若い人は使いませんが「～なならん」という言い方もあります。

(64) 宿題やらななら**ん**。

「する」の「～んなん」の形は「せんなん」「しんなん」です。

(65) 明日 遠足やし、早起き せん**なん**。

21. 「～たらいかん」—禁止—

(66) こんなとっから 入っ**たらいかん**よ。

(こんなところから入ってはいけないよ。)

「～てはいけない」と禁止するとき、「～たらいかん」と言います。

また、若い人はあまり使いませんが「だめだよ」という意味で「だちゃかん」という言い方があります。

(67) だらだらしとったら **だちゃかん**げんぞ。

練習問題

練習1 次の文を例のように「～ま」を使って強く命令する言い方にしてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ 起きま。）

(1)本気で走る。 → （ ）

(2)力を入れる。 → （ ）

(3)急いで準備する。 → （ ）

練習2 次の文を例のように「～んなん」の形にかえてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ 起きんなん。）

(1)全部食べる。 → （ ）

(2)きれいに書く。 → （ ）

(3)親孝行する。 → （ ）

練習3 次の文を例のように「～たらいかん」の形にかえてみましょう。

例：はよ起きる。 → （はよ 起きたらいかん。）

(1)夜ふかしする。 → （ ）

(2)約束をやぶる。 → （ ）

(3)宿題を忘れる。 → （ ）

鶴来ことば豆知識⑧

促音化

北陸の中でも石川の方言に共通した特徴として「促音化」が盛んに起きることが挙げられます。「促音」とは「っ」で表記される「つまる音」のことです。中でも、金沢を中心とした北加賀方言には「促音化」がよく現れます。

「ソース とってくれっけ？（てくれるけ）」
「明日も 来れっけ？（来れるけ）」
「乗せてってやっか？（やるか）」
「学校 行ってくっぞいや。（てくるぞいや）」

このように、最後が「る」で終わる動詞の「る」が「っ」になる例が特に多いようです。他にも「行こっさ（行こうさ）」や「行っこっちゃ（行くこっちゃ）」など動詞が文末詞「け」「ぞいや」「さ」「こっちゃ」などと合わせて使われるときに「促音化」がよく現れます。

また、若い人たちに使われる金沢ことばの中にも「はっげー（はがいしい）」「きっちー（きつい）」「むっじー（むずかしい）」「やっきねー（やるきがない）」のような促音化がよく聞かれます。

ほかに「とっしより（年寄り）」「てったい（手伝い）」など名詞にも「促音化」が見られます。

ここに挙げなかったもの以外にも、促音化の例はたくさん見つかると思いますので、ぜひまわりから聞こえてくることばをしっかりと観察してみてください。

第9課 寒いさけうちんなか入っころーさ。

会 話 (50 歳代)

ゆうこ：ほんな 帰るわ。長いこと あんやとね。

ふみこ：なもや、気い一つけて 帰れや。

ゆうこ：あら、雨 降つとるがに、傘 持ったらんわ。

ふみこ：ほんな これ 持っていっこっちゃ。

ゆうこ：あらー 気のどくな。

ふみこ：ほっでも、あんた。通り雨やさけ、もうちょっこ すりや、やむわいね。

ちょっこ 待つまっし。

ゆうこ：ほやんねー。ちょっこり 待っとるわ。

ふみこ：おいね、寒いさけ うちんなか 入っころっさ。

こっつとーと こたつに ねまっとるこっちゃ。

会 話 (10 歳代)

ゆうこ：んじゃあ 帰るわ。長いこと あんがと。

ふみこ：なもや、気い一つけて 帰んしやい。

ゆうこ：あら、雨 降つとるがに、傘 持ったらんわ。

ふみこ：ほんな これ 持っていかんかあ。

ゆうこ：あらー ありがと。

ふみこ：ほんでも、あんた。通り雨やから、もう少し 待っとならあ、やむわいね。

ちょっこ待ちまっし。

ゆうこ：そーやねー。ちょっこし 待つかいねー。

ふみこ：そーやん、寒いさけ うちんなか 入っころっさ。

こっとり こたつに 寝とりまっしね。

こ と ば

◆ あんやと、あんがと：ありがとう。

◆ こっつとーと：ゆっくりと。のんびりと。くつろいだ様子。

◆ ねまる：すわる。

共通語では

ゆうこ：それじゃあ帰るね。長いことありがとう。

ふみこ：いいえ、気をつけて帰きなさい。

ゆうこ：あら、雨が降っているのに、傘を持っていないよ。

ふみこ：それなら、これを持っていきなさいよ。

ゆうこ：あら、ありがとう。

ふみこ：それでも、あなた。通り雨だから、もう少しすればやむよ。少し待ちなさいよ。

ゆうこ：そうだね。少し待とうかな。

ふみこ：そうだよ、寒いから家の中に入っていようよ。ゆっくりこたつに入っていなさいよ。

表 現

22. 「～さけ」―原因・理由―

(68)約束 あっ**さけ** 行けんわ。(約束があるから行けないよ。)

(69)寒かった**し**、はよ 寝たわ。(寒かったから、早く寝たよ。)

金沢方言の原因・理由を表す接続助詞は「～さけ」「～さかい」または「～し」です。若い世代では「～し」という言い方をよく使います。また、最近は共通語と同じ「～から」もよく聞かれるようになり、高校生以下の若い世代では「～さけ」「～さかい」はほとんど使われないようです。

70・80代	「～さけ／さかい」＞「～し」
40・50代	「～さけ／さかい」≥「～し」
20代	「～し」＞「～さけ／さかい」
10代	「～し」＞「～から」

23. 「～がに」―逆接―

(70)雨 降つとる**がに**、傘 もつとらん。(雨が降っているのに、傘を持っていない。)

(71)なーん 寒ない**がに**、えらい 厚着 しとるじー。(全然寒くないのに、ずいぶん厚着をしているね。)

鶴来では共通語「～のに」にあたる、逆接を表す接続助詞として「～がに」を使います。「～さけ」と同じように「～がに」も世代によって言い方が少しずつ違います。若い世代では「～がんに」「～んに」という言い方をします。

70・80代	「～がに」
40・50代	「～がに」＞「～がんに」＞「～んに」
20代	「～んに」＞「～がんに」＞「～がに」
10代	「～んに」＞「～がんに」

24. 「～や」―一般的な条件・順接の仮定条件―

(72)1に 1 たし**や**、2やろ。(1に1をたせば、2だろう。)

(73)もっと 足が 長けり**や** いいがに。(もっと足が長ければいいのに。)

鶴来では共通語「～ば」のかわりに「～や」という言い方をします。

練習問題

練習1 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

さけ さかい さかいに し

(1) 明日 約束ある_____行けんわ。

(2) 寒かった_____はよ 寝たわ。

練習2 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

がに がんに んに

(1) 腹 へっとなる_____食べれん。

(2) 会いたい_____会えん。

練習3 次の文を例のように鶴来ことばに変えてみましょう。

例：羽があれば飛べるのに。⇒（羽が ありや 飛べるがに。）

(1) 呼べばすぐ来るよ。

→ ()

(2) 安ければ買って置いて。

→ ()

鶴来ことば豆知識⑨

気候と方言

方言は地方の文化であり、地域性を反映したものとよく言われることがありますが、鶴来のことばについて詳しく見ても、このことばは鶴来だから使われるようになったとか、鶴来だから生まれたとはっきり言えそうなものは実は多くありません。なぜなら、鶴来で使われることばの多くは、かつての都（中央語地域）があった京都方面から伝わったものがもとになっているからです。

そんな中で、たとえば気候と関係のある方言の中でも、冬の雪にまつわる鶴来ことばには、この地域で独自に生まれたものがありそうです。

みなさんは知らない（使わない）かもしれませんが、鶴来ことばの中からそんな例をいくつか拾ってみましょう。

ゴボル……雪道を歩いていて雪に足がはまる

ゴッポ……下駄で雪道を歩いたときに、下駄の歯の間につまる雪の固まり

ユキスカシ……雪除け作業

ユキヤケ……しもやけ（凍傷）

ユキガミナリ……雪が降る前兆としての雷

コシキダ……木製の雪掻き具

ザラメユキ……粗い氷のような雪

最近では雪が少なくなって、こうした雪の生活にまつわる方言もだんだん忘れ去られようとしているのは仕方がないことですが、地域性を反映した方言の例としては面白いものです。みなさんのまわりにいる、雪が多かった時期を知っている人に、雪にまつわる鶴来ことばにどんなものがあつたか聞いてみましょう。

ところで、東北が寒くて口を大きく開けて発音しないからズーザー弁のような発音になったという説を信じている人がいますが、これは真っ赤なうそです。なぜなら、ズーザー弁的発音は、寒さのきびしい東北だけでなく、北陸の富山県・石川県の一部や山陰の出雲地方あたりにもあるからです。

第10課 はよらとどこ行くがけ？

会 話 (50 歳代)

ふみこ：あら 奥さん、はよらと どこ 行くがけ？

ひろこ：正月の 準備に 近江町まで 行くがや。

ふみこ：ほんなら、私も つんだって 行くわ。

ふみこ：奥さん、カニ こうてかんけ？ 安いぞいね。

ひろこ：なんぼなんかで 小さいかいね？ もっと 大きなけな、あいそむないやろ。

ふみこ：ほ一やね。あんた、もっと 大きて たこねえ カニ ねえかいね。

魚 屋：ねえさん、これどうけ？ こん中で 一番 大きいぞいね。

ひろこ：ほんな、この カニ もろ一さけ、ちょっこ おまけ しまっしま。

会 話 (10 歳代)

ふみこ：あら 奥さん、こんな 早くに どこ行くん？

ひろこ：正月の 準備に 近江町まで 行くげん。

ふみこ：なら、私も ついて 行くわ。

ふみこ：奥さん、カニ 買っていかんけ？ 安いよ。

ひろこ：いくらなんでも 小さくないけ？ もっと 大きくないと、物足りなくない？

ふみこ：そうやね。あんた、もっと 大きくて 高くない カニ ないがん？

魚 屋：おくさん、これ どうけ？ この中で 一番 大きいよ。

ひろこ：なら、この カニ もらうし、なんか おまけしてや。

こ と ば

- ◆ 近江町：近江町市場。金沢の台所として親しまれる。鮮魚、青果、精肉などの約 180 の店が軒を連ねている。
- ◆ なんぼなんかで：いくらなんでも。
- ◆ あいそむない：物足りない。寂しい。

共通語では

ふみこ：あら奥さん、早くにどこに行くの？

ひろこ：正月の準備に近江町まで行くんだ。

ふみこ：それなら、私もついて行くよ。

ふみこ：奥さん、カニを買っていかないかい？安いよ。

ひろこ：いくらなんでも小さくないかい？もっと大きくないと物足りないだろう。

ふみこ：そうだね。あなた、もっと大きくて高くないカニはないのかい？

魚 屋：奥さん、これはどうだい？この中で一番大きいよ。

ひろこ：それじゃあ、このカニもらうから、何かおまけしなさいよ。

表 現

25. 「～らと」 — 「形容詞＋に」 —

(74) こんな **はよらと** どこ行くがけ？ (こんなに早くにどこいくの？)

(75) 昨日な、**おそらと** 帰ってきたじー。(昨日は遅くに帰ってきたね。)

共通語「早くに」「遅くに」にあたるものとして、鶴来では「はよらと」「おそらと」という言い方があります。

26. 「～ない」 — 形容詞の否定形 —

(76) ほんなに 着こんで **あつない**け？ (そんなに着こんで暑くない？)

(77) 安売りやって ゆうけど、なーん **やすない**わ。(安売りだって言うけど、全然安くないよ。)

共通語では形容詞の否定形は「あつくない」「やすくない」ですが、鶴来では多くの場合「く」がぬけて「あつない」「やすない」と言います。

27. 「～て」 — 形容詞のテ形 —

(78) **しろて** 大きい 花が 咲いとる。(白くて大きな花が咲いている。)

(79) テストの 点数 **よーて** よかったじー。(テストの点数良くて良かったね。)

共通語では形容詞の「て」がつく形は「しろくて」「よくて」ですが、鶴来は「く」が「う」に変わった「しろーて」「よーて」となったり、さらに「しろて」となったりします。

28. 「～なけな」 — 形容詞に続く否定条件「形容詞＋ないと」 —

(80) もっと **安なけな** 売れんぞいね。(もっと安くないと売れないよ。)

(81) **あったかなけな** 桜も 咲かんわ。(暖かくないと桜も咲かないよ。)

金沢方言では「安くないと」「あたたかくないと」のように形容詞に条件を表す「～ないと」がつくとき、「安なけな」「あったかなけな」のように「～なけな」と言います。

練習問題

練習１ 次の下線部を例のように鶴来ことばに変えてみましょう。

例：私も もう 若くないさけな。 ⇒ ()

(1) この 料理 うまくないな。

→ ()

(2) 春な、暖かくて いいね。

→ ()

(3) もっと 長くないと 届かんぞいね。

→ ()

練習２ 次の文を鶴来の言い方に変えてみましょう。

(1) 英語は難しくないよ。

→ ()

(2) こんなに夜遅くにどこ行くの？

→ ()

(3) あそこのお化け屋敷は全然怖くないよ。

→ ()

鶴来ことば豆知識⑩

鶴来方言のオノマトペ

「あらーちゃわちゃわと。ちんとしとろ。ちみちみやぞ。」

部屋の中を走り回る子どもたちに、大人たちはよくこのセリフを言ったものです。「ちゃわちゃわ」はせわしない動きや落ち着きがない様子を表すオノマトペ（擬声語・擬態語）です。「ちんと」は「ちゃわちゃわ」とは反対のじっとしている状態、「ちみちみ」は指先でひふ皮膚をつまんでねじることを指します。「ちみちみ」は痛いので、こう言われた子どもたちはすぐに「ちんと」するわけです。また、おしりをたたくことを「ぺんぺん」と言います。

鶴来には、ほかにも共通語にはないようなオノマトペが存在します。その一部を紹介したいと思います。

けんけん、ぴんぴん、つんつん……	鉛筆の先がとが尖っている状態。
ちゃべちゃべ	……おしゃべりな様。出しゃばりな様。
じゃみじゃみ	……テレビ画面の砂嵐状態。
ちんちん	……お湯などが触れないくらい熱い様。
きんきん	……飲み物がよく冷えている様。
すーすー（する）	……寒気がする。
つるつるいっぱい	……液体が容器にこぼれんれんばかりに注がれている状態。
きときと	……魚介類などの新鮮な様。
むたむた	……部屋などが散らかっている様。
ごぼる・ずぼる	……積もった雪に足をとられること。はまる。
がつぱに（なる）	……必死に（なること）。
こぼこぼ	……イモやカボチャの実がホクホクしておいしそうな様。
いんぎらーと、おんぼらーと	……ゆったりとした様。
めっこめざらし	……何から何まで全て。

第11課 食べれるわいや。

会 話 (10 歳代)

つよし：好きなもん 頼んまっし。今日な 世話ん なったさかい おごるわ。

たかし：じゃあ、チャーシュー麺 大盛りに するわ。いいけ？

つよし：おう。いいけど お前 食べれるんかいや。

この 店な スープが くどいってゆう 噂やぞいや。

たかし：大丈夫、大丈夫。食べれるわいや。

店 員：はい、どうぞ。

つよし：すげえーなー。でっけー チャーシューやな。

たかし：うまそーやな。いただきます。

ん？なんや、なんも くどねーがいや。しょもねーぞいや。

こ と ば

- ◆ くどい：塩辛い。
- ◆ でっけー（でかい）：大きい
- ◆ しょもねー：味がうすい。

共通語では

つよし：好きなものを頼みなさい。今日は世話になったからおごるよ。

たかし：それなら、チャーシュー麺大盛りにするよ。いいかい？

つよし：おう。だけどお前食べられるのかい。

この店はスープが塩辛いという噂だよ。

たかし：大丈夫、大丈夫。食べられるよ。

店 員：はい、どうぞ。

つよし：すごいなあ。大きいチャーシューだな。

たかし：おいしそうだな。いただきます。

ん？これは、全然塩辛くないよ。味がうすいよ。

表 現

29. 「食べれる」 ― 一段活用・カ変動詞の可能動詞形―

- (82)全部 **食べれる**よ。(全部食べられるよ。)
(83)今夜 流星が **見れる**よ。(今夜流星が見られるよ。)
(84)もっと 速い球 **投げれる**やろ。(もっと速い球が投げられるだろ。)
(85)明日も **来れる**け？(明日も来られる？)

「～できる」ということを可能といいます。「見る」「食べる」(一段動詞)、「来る」(カ変動詞)の可能の形は、共通語では本来「食べられる」「見られる」「来られる」でしたが、鶴来や金沢あたりは早くから、「見れる」「食べれる」、「来れる」という言い方がよく使われている、「ら抜きことば」の先進地です。

最近では、全国的に、また共通語でも「見れる」「食べれる」「来れる」という形が広まっています。

また、「行く」「書く」「読む」など(五段動詞)の可能の形は「行ける」「書ける」「読める」ですが、金沢では「ら抜き」が進んだことで、可能表現を「～れる」の形でそろえようとして、早くから「行けれる」「書けれる」「読めれる」のような「れ足すことば」が生まれています。

- (86)5時半までに**行けれる**け？(5時半までに行ける？)
(87)上手に**書けれる**ようになりたい。(上手に書けるようになりたい。)
(88)これなら5分で**読めれる**よ。(これなら5分で読めるよ。)

練習問題

練習1 次の文の下線部を例のように鶴来ことばに変えてみましょう。

例：服ぐらい1人で着られるわいね。

→ （着れる）

(1) 人が少ないさけゆっくり見られるわいね。

→

(2) 明日忙しいし来られんげんけど。

→

(3) 水に油は混ぜられんげんよ。

→

練習2 次の文を鶴来での言い方に変えてみましょう。

(1) もうちょっと字がうまく書けるようになりたいな。

→

(2) 準備できたからすぐに始められるよ。

→

(3) そんな高くては無理だよ。少し下げられないかな。

→

鶴来ことば豆知識⑪

ゆれるイントネーション

鶴来ことばでは、「あの～」「ほやさけ～」「行くんや～」のように、主に文の途中の学校文法で言う文節の切れ目や一部の文末の「～」の部分に、伸びてゆれる独特のイントネーションが聞かれることがあります。このイントネーションは、福井県から石川県、そして富山県の平野部の広い範囲で聞かれるもので、もともと近畿方言の影響を強く受け、それとの共通性を多く持つ北陸方言の中では、全国的にも北陸地方でしか聞けない独特のイントネーションとして、大事な特徴となっています。みなさんが、将来北陸以外の地方に移り住んだときなど、まわりからこのゆれるような独特のイントネーションが聞こえてきたら、北陸出身の人と考えてまず間違いないでしょう。

この全国的にも珍しい「ゆれる」特徴に注目して、研究者はこれまで「ゆすり音調」「波動音調」「うねり音調」（「音調」は「ゆすりイントネーション」のようにイントネーションと言い換えられる場合もあります）のような言い方で呼んできました。また、このイントネーションが、東京のことばの「それでね」「だからさ」の「ね」「さ」などの間投助詞の役目をしているという考え方から「間投イントネーション」とも呼ばれています。

年配の人たちに比べると、若い人たちからはこの独特のイントネーションがあまり聞かれなくなったような気はしますが、ふだんの気楽な場面ではみなさんも思わず出ているかもしれません。アクセントもそうですが、こうした発音の特徴というのは、「ばか」を「だら」と言うといった語形の違いと比べると方言の特徴として意識しにくいものですから、意外に根強く使われているということもあります。まわりの友だちの話し方に、この独特のイントネーションが現れるかどうか、注意して聞いてみてください。

第12課 まだ袋に入っとるさけ、だんないやろ。

会 話（10代）

正一：頼まれとった 雑誌 買っといたわ。
健太：おう、ありがと。お金払うけど。いくらや？
正一：580 円や。
健太：ねえ、これ今月号じゃないし。
正一：本当やー先月号買って来てしまったし。
健太：ちょっとー。どーするげんて。
正一：まだ袋に入っとるし、大丈夫やろ。
替えてもらってくるわ。

共通語では

正一：頼まれていた雑誌を買っておいたよ。
健太：ああ、ありがとう。お金を払ってしまうよ。いくらだい？
正一：580 円だよ。
健太：おい、これは今月号とは違うよ。
正一：あらー、先月号を買ってきてしまったのかよ。
健太：困ったな。どーするんだ？
正一：まだ袋に入っているから、大丈夫だろう。
交換してもらってくるよ。

表 現

30. 「～とる」－動作の持続と結果の残存－

(89)昨日から雪が降**とる**。(昨日から雪が降っている。)

(90)この冷蔵庫こわれ**とる**よ。(この冷蔵庫は壊れているよ。)

「～とる」は、何かの動きが続いていることを表したり、何か起こったことの結果がまだ残っていることを表します。共通語の「～ている」にあたる表現です。

31. 「～とく」－準備・措置－

(91)宿題は早めに終わらし**とく**。(宿題は早めに終わらせておく。)

(92)暑いし窓あけ**とく**よ。(暑いから窓を開けておくよ。)

「～とく」は、何かを前もってやることを表したり、何かをそのままの状態にすることを表します。共通語の「～ておく」にあたる表現です。

32. 「～てもー」－残念・完了－

(93)宿題や**ってもー**てから遊ぶまっし。(宿題をやってしまってから遊びなさい。)

(94)窓ガラス割**ってもー**た。(窓ガラスを割ってしまった。)

「～てもー」は、何か動作を終わらせることを表したり、残念な気持ちを表します。共通語の「～てしまう」にあたる表現です。

練習問題

練習1 の中から選んで下線部をうめてみましょう。

とる	とく	てもー
----	----	-----

- (1)このテキスト、変わっ_____ね。
(2)電話し_____間に、暗くなっ_____た。
(3)メールアドレスは既に聞い_____さけ、ゆいちゃんには私から連絡し_____わ。
(4)みさき：この話、さくらには黙っ_____ようになって言われとってんけど、つい言っ_____たわ。
さくら：なーん、聞かんかったことにし_____。

練習2 次の文を金沢のことばに変えてみましょう。

- (1)雪が降っているよ。
→ ()
(2)あそこに財布が落ちている。
→ ()
(3)本を読んでいたら、眠くなってしまった。
→ ()
(4)汚れてしまっていたあの体操服、洗っておいたよ。
→ ()

鶴来ことば豆知識⑫

新しく生まれる方言（新方言とネオ方言）

テレビが普及した 1960 年代以降、日本の方言は若い世代を中心に急速に衰退し、共通語化が進んできました。

しかし、1980 年代頃からは、方言の衰退を惜しむ人や、方言を地方の文化として大切にしなければならないといった意見をもつ人が増えてきて、方言の見直しが盛んです。そして、そうした見直しの影響もあって、地域では方言が共通語化するばかりでなく、新しい方言も生まれています。

たとえば鶴来で新しい方言が生まれる場合、そこでは二つのケースが見られます。一つは、共通語とは無関係に鶴来で独自に新しい方言が生まれる場合、もう一つは、鶴来ことばが共通語の影響を受けて、鶴来ことばと共通語の両方が混ざったような中間的な形ができる場合です。新しい方言の中でも前者のようなものを「新方言」、後者のようなものを「ネオ方言」と呼んでいます。

鶴来ことばの「新方言」の例としては、この本の第3課で取り上げた「げん」、そしてそれがもとで生まれた「～ねん、～てん、～れん」などが代表的なものです。お年寄りが使っていた「いじくらしい」が変化した「いじっかしい」もそうです。

一方、「ネオ方言」の例には、「書かんかった」「見んかった」などの「～んかった」の形、「行けんくなった」「見れんくなった」などの「～んくなった」などがあります。もともとは「書かなんだ」でしたが、共通語の「書かなかった」の影響を受けて、否定の言い方の方言形「書かん」と「～かった」が混ざってできた形です。「行けんなくなった」も方言形「行けん」と共通語「行けなくかった」の「～くなった」が混ざった形です。

「ネオ方言」は、方言の勢いが強いと言われる関西地方や九州地方の方言が変化するとき、全面的な共通語化に抵抗して一部だけ共通語を受け入れた形として生まれやすいと言われます。いずれにしても、「新方言」や「ネオ方言」が今も生まれるというのは、その方言にまだ元気があるということだと思えるのです。鶴来のことばがただ共通語化するだけでなく、これからも新しい方言を生み出すためには、みなさんのような若い人たちが方言に自信をもち、愛着をもつことが必要なのです。

第13課 何回も起こいたがいね。

会 話（10代）

たかし：あー。まにあわんがいね。なんで 起こしてくれんがん。

ふみこ：何回も 起こいたがいね。

たかし：嘘やろ。なんも 気づかんかったしー。

ふみこ：まあ、早く 朝ご飯 食べてや。

たかし：あー。みそ汁 こぼしてしまってたけど。

ふみこ：あらー 落ち着き ないね。ちゃんと ひとつてや、いじっかしい。

たかし：ほんなこと ゆって、遅刻したら どーするげんて。

ふみこ：大げさやし、ちょっとぐらい 遅れても 大丈夫やし。

こ と ば

◆ いじっかしい：うっとうしい。

共通語では

たかし：ああ。間に合わないよ。どうして起こしてくれないんだよー。

ふみこ：何回も起こしたよ。

たかし：嘘だろ。何も気がつかなかったよ。

ふみこ：まあ、早く朝ご飯を食べなさい。

たかし：ああ。みそ汁こぼしてしまった。

ふみこ：あらあ、落ち着きがないね。おとなしくしてなさいよ、うっとうしい。

たかし：そんなこと言って、遅刻したらどうするんだい。

ふみこ：大げさな、少しくらい遅れても大丈夫だよ。

表 現

33. 「起こいた」 — サ行五段動詞のイ音便化 —

(95) ゴミならもう出いたわ。(ゴミならもう出したよ。)

(96) 財布落といても一た。(財布を落としてしまった。)

「出す」「落とす」の「～た」という形は、共通語では「出した」「落とした」ですが、伝統的な鶴来ことばでは「出いた」「落といた」となります。しかし、「貸す」「押す」などは共通語と同じ「貸した」「押した」です。

最近では共通語の影響をうけて、「出す」「落とす」であっても共通語と同じ「出した」「落とした」と言うことが増えています。

イ音便化しやすい動詞	イ音便化しにくい動詞
ほいた (干した)	たした (足した)
もやいた (燃やした)	むした (蒸した)
かくいた (隠した)	なした (為した)
こぼいた (こぼした)	けした (消した)
こわいた (壊した)	こした (越した)
はないた (離した)	ふした (伏した)
うついた (写した)	めした (召した)
おこいた (起こした)	よした (止した)
さがいた (探した)	たやした (絶やした)
すまいた (すました)	ちらした (散らした)
ずらいた (ずらした)	ねざした (根ざした)
たらいた (垂らした)	もうした (申した)
なかいた (泣かした) など多数	こらした (凝らした)

練習問題

練習1 次の下線部を例のように伝統的な鶴来ことばに変えてみましょう。

例：机の中を全部探した。 → (さがいた)

(1)小さい子を泣かしたらだちゃかんげんぞ。

→ ()

(2)明日の朝、5時に起こして。

→ ()

(3)あとで見るし、テーブルの上に出しておいて。

→ ()

(4)見つからんように、はよ隠して！

→ ()

練習2 次の下線部を伝統的な鶴来ことばに変えてみましょう。

(1)はるか：ここに置いといた封筒、見んかった？探しても探してもないげんけど。

→ ()

母：あ、ほの封筒やったらごみに出したかも知れん。

→ ()

はるか：えー！

(2)ななみ：きのう、家で干したばかりの布団の上にお茶こぼしても一たうえ。

→ () → ()

ももか：ほーなん！？

鶴来ことば豆知識⑬

がんこな

「あらーあんた、がんこなー。」

「あんたの方こそ、がんこながにしてー。」

これは派手な服装をした女性同士が、お互いの服装について「派手すぎる」ということを主張し合っている場面の会話です。

共通語の「がんこな」は「頑固な（強情な）おじさん」や「頑固な（しつこい）水虫」などのように使われますが、鶴来では「びっくりするほど程度がはなはだしい」といった意味を基本に、以下のような微妙に異なるさまざまなニュアンスで使われます。

（大盛のらーめんが運ばれてきて）あらーがんこなー。

（朝、窓を開けたら、物凄い積雪量だった）がんこな雪やなー。

（兼六園の満開の桜を見て）がんこながに咲いとるなー。

（車が急発進するのを見て）あらーがんこな運転やなー。

（携帯電話を床に放り投げるのを見て）ほんな、がんこなことすんなまいや。

また、最近若い人たちの間では「がんこ寒い」「がんこうまい」のように形容詞の前につけて「すごく～」という意味で「がんこ」が使われています。基本的には「がんこな」という形容動詞型で使われるものですが、若い人たちは副詞としての「がんこ（「とても」に近い意味で）も使い始めています。

付録：石川の方言と金沢ことば—概説—

ちょっと難しいげんけど、読んでみてま！

1. 全国の方言から見た石川の方言の位置

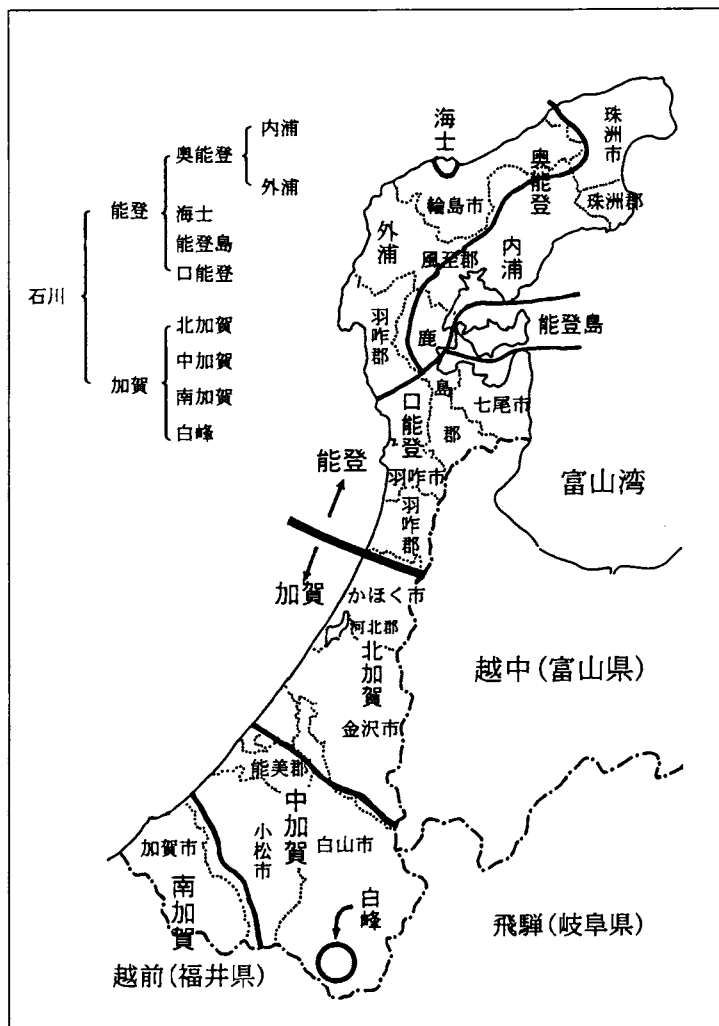
日本の方言を、共通することばの特徴によって大きく分けると、まず本土方言と琉球方言の二つに分かれます。そして、九州よりも北の本土方言は東部方言、西部方言、九州方言の三つに分けるのが一般的です。金沢ことばを含む石川県の方言は、新潟県の佐渡、富山県、福井県嶺北地方の方言とともに北陸方言としてまとめられ、そのうちの西部方言に属します。このことは、北陸方言が、かつての中央語地域であった近畿地方の方言の影響を強く受け続けてきたことを示すものです。中でも、オル（いる）、カカ_ン（書かない）、イカ_ナンダ（行かなかった）、ユータ（買った）、ア_ユナル（赤くなる）、アメ_ヤ（雨だ）、フットル（降っている）、フルサカイ（降るから）などの文法的特徴における近畿方言との共通性がそのことをよく示しています。

石川県内の方言は、その違いの大きさから、北の能登の方言（羽咋郡から北）と南の加賀の方言（かほく市から南）に大きく分けられますが、加賀の方言はさらに、かほく市以南で手取川以北の金沢市、野々市町、旧松任市を中心とした北加賀方言と、手取川以南の白山市（旧鶴来町を含む）、能美市、小松市を中心とした中加賀方言と、加賀市の南加賀方言の三つに分けることができます。

2. 加賀の方言

加賀地方の方言は、京都の言葉が北国街道沿いに福井県を經由して伝わったものを基礎としています。北加賀方言は加賀百万石の城下町として独自の方言をはぐくんだ金沢ことばの影響を強く受けていて、城下町の複雑な社会構造や京都との直接の交渉を背景とした「～マサル」などの敬語表現、そしてあいさつ表現

＜石川県の方言区画図＞



や語いなどに特色があります。

加賀市を中心とする南加賀方言は、北加賀・中加賀方言でカクマサル・カクマッシャル（お書きになる）、シマッシ（しなさい）、イクガヤ（行くのだ）となるところが、カキナル、シネー、イクンヤとなるなど、福井県の嶺北方言と共通する特徴が多くなります。

小松市方言を中心とする中加賀方言は、南加賀方言に連続する特徴ももつと同時に、金沢ことばを中心とする北加賀方言の影響も受け、両方の中間的性格を示します。なお、中加賀方言のうちでも白山麓の方言は、ゴザル（「居る、行く、来る」の尊敬語）などの歴史的に古いことばも見られ、中でも白峰方言はギラ（私）、ノイノ（さようなら）、～チョル・～ジョル（～ている）、ノ一ダ（飲んだ）など、ほかの加賀地方の方言とは異なる特徴や古い状態を残したものが多く、言語の島として研究者からも注目されてきました。

加賀地方のアクセントはおおよそ京阪式アクセントに近い姿を示し、大まかには北加賀方言と南加賀方言でタイプが違うものの、2拍名詞を例にとると、2拍目の音節の音声的条件（子音の有声・無声、母音の広狭）に影響されるという複雑な規則がある点で共通しています。

最近では、加賀地方の方言も、若い世代を中心に伝統的な方言の衰退と共通語化が確実に進んでいます。しかし、そんな中で今も根強く受け継がれている方言もあり、また、イーゲンテ（いいんだよ）の「～ゲン」のように、伝統的方言が変化した方言、イケンクナッタ（行けなくなった）のように共通語の影響を受けて生まれた方言と共通語の中間的な方言などの新しい方言も生まれています。

加賀の方言の地域差は今後も少しずつ少なくなり、地方共通語としての役割を担う金沢市の方言に似た姿に近づいていくことが予想されます。

3. 能登の方言

能登の方言は、加賀の方言と同じように、特に文法的特徴について近畿方言との共通性が多く見られます。県内の伝統的方言の分布では、かほく市と羽咋郡の境あたりに、ウラーオラ（私）、ギャワズーギャット（蛙）、カザーフガ・ホガ（匂い）、ナーンベッチャ（いいえ）、クドイーカライ（塩辛い）などの境界線が集中しており、そこを境に南の加賀の方言と北の能登の方言にまず大きく分けられます（一を挟んで左が加賀の方言形で右が能登の方言形です）。

能登の方言は、さらに口能登方言と奥能登方言に分けられます。口能登方言は富山県方言、奥能登方言は新潟県の佐渡方言との共通性が多く見られます。奥能登方言は輪島市を中心とした外浦方言と、富山湾側の内浦方言に分けることができます。江戸時代に九州の福岡からの集団移住があったと伝えられる輪島市海士（あま）町の方言は、以前は九州方言の特徴が認められるなど、輪島市の周囲の方言とは違っていました。

能登の方言分布を見ると、かつての中央語地域である近畿地方からの語の伝播が、福井県から街道沿いに加賀地方を経由して陸路で能登地方に伝わるという基本的なパターンのほか、金沢を中心とする加賀地方を経由せずに、福井県から直接海路で能登に伝播したと思われるものがあります。前者の場合は、一般に能登の方言は加賀の方言に比べて歴史的に古いものであり、一方、後者の場合には、海路で伝わった能登の方言の方が加賀の方言よりも歴史的に新しいと思われる例もあります。金沢を中心とした加賀地方では使われな

い「ありがとう」のオーキニ（輪島市）、「つらら」のボーダレ（奥能登）などは、いずれも福井からの海上伝播によって能登に伝わった例と考えられます。能登半島先端部の珠洲の方言には、「～ノキャ」「～ワキャ」などの独特の文末表現が聞かれ、高年層では北陸方言には珍しい能力可能と条件可能の区別（書ケーウエル・着ーウエル＜能力可能＞－書ケル・着ラレル＜状況可能＞）が存在します。

音声的特徴には、まず発音の面で、富山県沿岸部に続く口能登から奥能登の内浦地域の高年層方言に、シ・ス、ジ・ズ、チ・ツがそれぞれ同音となる東北方言のズーズー弁に似た発音が聞かれます。日本語の古い発音であるクッ・グッ、セ・ゼにあたるシェ（「へ」となる地域も）・ジェが広い範囲で聞かれ、イ段とエ段の混同（～ネく～に＞など）、ウ段とオ段の混同（オサギく兎＞など）も聞かれます。アクセントの分布は複雑です。大まかには口能登と奥能登（珠洲市を含む内浦）が京阪式アクセントで、京都の古いアクセントに似たものが聞かれます。奥能登でも外浦は京阪式が変化した曖昧なアクセント、能登島の一部には東京式アクセントも分布します。

4. 金沢ことば

狭い意味での金沢ことばとは、江戸時代に加賀百万石の城下町金沢で形成された、やや洗練されたことばをさします。従来、金沢ことばというと、お城の周辺の町屋、旅館、茶屋街などで使われることばだけを取り上げることが多かったのは、この考え方によるものです。

一方、現在の金沢ことばと言えば、金沢市の全域で使われていることばの総体をさして、広い意味での金沢ことばがこれにあたります。

金沢ことばは、加賀地方の方言を北加賀方言・中加賀方言・南加賀方言の三つに分けた場合の北加賀方言の中心的存在です。長く中央語であり続けた京都ことばが北国街道沿いに伝わったものを基礎としながら、そこにかつての城下町としての複雑な社会構造と京都との直接的交渉、さらに近代以降の北陸の中核都市としての性格が、周囲の加賀の方言とはやや一線を画する金沢言葉をも育んだと考えることができます。様々な階層、職種の人々が混在した城下町では、人間関係を円滑にするための敬語表現や挨拶表現が一般的に発達しやすく、金沢ことばもまた例外ではありませんでした。オココロアリヤコソ、ヨーコソ オイデアソバセ（お心に掛けていただいてありがとうございます、ようこそおいで下さいました）、アンヤトゴザイミス（ありがとうございます）、サッキ カエルマシタガヤ（さつき、お帰りにになりましたよ）、オイデマス（いらっしゃる）、ゴキミツツァン（ご丁寧に、ありがとうございます）、オユルッシュ（よろしく）など、かつては豊富な敬語表現、挨拶表現が使われていましたが、現在では敬語助動詞「～マサル」の命令形にあたる「～マッシ」が「～なさい・～ましょう」に当たる優しい命令・勧誘の表現として、また、オイデマスが共通語意識で使われ続けているほかは、いずれもほとんど使われなくなっています。金沢ことばに特徴的な語いには、キンカンナマナマ（雪道が凍ってつるつるになった状態）、ゴッポ（下駄の歯の間にはさまった雪の固まり）、オカベ（豆腐）、ハベン（蒲鉾）など、金沢の風土や生活に根付いたものも少なくありませんが、これらもまた若い世代では使われなくなっています。

こうした狭い意味での金沢ことばの表現や語彙が衰退しつつある中で、金沢ことばは今

後、広い意味での金沢ことばとして、ほかの北加賀方言と共通する特徴をもとにしながら、～ゲン（～ネン・～レン・～テン）に代表されるような新しい方言の発信源として、共通語の影響も強く受けながら、石川県内の地方共通語としての役割を担っていくに違いありません。鶴来のことばは本来、こうした金沢ことばとは異なる中加賀方言的特徴を持っていましたが、最近の金沢のベッドタウン化とともに、ことばの面でも次第に金沢ことばに近づきつつあると考えることができます。

◇鶴来ことばについて学ぶための参考文献◇

※ここでは、1980年代以降のもので、今も公共図書館等で見ることのできそうなものを中心に、鶴来（金沢）ことばについて参考になりそうなものを発行年順に紹介します。

- 川本栄一郎（1983）「石川県の方言」『講座方言学 6 中部地方の方言』国書刊行会
- 志受俊孝（1983）『金沢の方言—金沢弁のいろいろ—』北国出版社
- 島田昌彦（1989）「金沢のことば」『金沢市史（現代編）続編』金沢市
- 川本栄一郎（1992）「石川県方言」『現代日本語方言大辞典 第1巻』明治書院
- 加藤和夫（1995）「隠れた方言コンプレックス」『変容する日本の方言』大修館書店
- 北国新聞社編集局編（加藤和夫編集協力）（1995）『頑張りまっし金沢ことば』、北国新聞社
- 島田昌彦（1998）『加賀城下町の言葉』能登印刷出版部
- 加藤和夫（1999）『ビデオ「金沢ことば」の解説』金沢市教育委員会
- 加藤和夫（1999）「日本の方言探訪⑤ 石川編」『月刊言語』1999年5月号 大修館書店
- 佐藤和之・米田正人編著（1999）『どうなる日本のことば—方言と共通語のゆくえ』大修館書店（加藤和夫ほか10名執筆）
- 加藤和夫（2000）「金沢方言に見る『方言進化論』—方言は本当に衰退しているのか—」『北國文華』第5号 北国新聞社
- 加藤和夫（2001a）「北陸方言のオノマトペ—道がキンカンナマナマやじー—」『月刊言語』2001年8月号 大修館書店
- 加藤和夫（2001b）「近畿に共通する方言」『月刊北國アクタス』2001年11月号 北国新聞社
- 前田武輝（2001）「日常生活の言葉」、『金沢市史 資料編 14 民俗』金沢市
- 加藤和夫（2002）「日本海側の雪のことば—北陸地方の雪にまつわることば—」、『日本語学』2002年1月号 明治書院
- 加藤和夫（2003a）「〈小事典〉ふるさとのことば 石川県」『月刊言語』2003年1月号 大修館書店
- 加藤和夫（2003b）「北陸人の方言意識を探る—コンプレックスからの脱却をめざして—」『北國文華』第15号 北国新聞社
- 加藤和夫（2003c）「今も生きている金沢ことば（上）」『おもしろ金沢学』北国新聞社
- 前田武輝（2003）「今も生きている金沢ことば（下）」『おもしろ金沢学』北国新聞社
- 新田哲夫（2004）「石川県金沢方言のギャとその周辺」『日本海沿岸の地域性とことば』桂書房
- 加藤和夫（2004）「加賀の方言」「金沢言葉」「能登の方言」『書府太郎（上巻）石川県大百科事典 改訂版』北国新聞社
- 加藤和夫監修（2005a）『〈試作版〉みんなで学ぼう！金沢ことば』（自家版）
- 加藤和夫監修（2005b）『新 頑張りまっし金沢ことば』、北国新聞社

※図書、論文以外で参考になりそうなもの

- ・金沢市教育委員会（1996・1997・1998）『ビデオ金沢ことば』（全3巻）金沢市教育委員会
*各巻15～20程度で金沢ことばが映像として記録されています。加藤が執筆した解説書付きです。
- ・「石川県ことばライブラリー」 *2003年、石川県立生涯学習センター1階に設置されました。全国の方言や金沢ことばを含む石川県内の方言についてパソコンで楽しく学べます。石川県の方言に

については「いしかわの方言会話（金沢方言―珠洲方言対照）」「いしかわの方言辞典」「いしかわの方言たたきゲーム」があり、加藤が監修しています。現在は、石川県庁最上階の展望フロアーに移設されています。

- ・「金沢の方言」（<http://www.city.kanazawa.ishikawa.jp/hougen/>）＊金沢市の HP「いいねっと金沢」におさめられています。

◇方言について学ぶための参考文献◇

※ここでは、石川の方言や金沢方言（金沢ことば）だけでなく、全国の方言について学ぶための入門的参考文献を挙げておきます。

柴田武（1988）『生きている日本語』講談社学術文庫

尚学図書編（1989）『日本方言大辞典』（全3巻）小学館 ＊加藤も下巻巻末の「音韻総覧」を分担執筆しています。

河出書房新社（1990）『ことば読本 方言と共通語』河出書房新社

佐藤亮一監修（1990）『郷土の研究 方言をしらべよう』（全10巻）福武書店

櫻本喜徳（1991）『おもしろ国語ゼミナール⁴ 全国方言たんけん』ポプラ社

方言資料研究会編（1994）『北から南 方言ものしり事典』啓明書房

すぎもとつとむ（1995）『方言風土記』雄山閣出版

佐藤亮一監修（1997）『日本の方言大研究』（全7巻）ポプラ社

川崎洋編（1998）『日本方言詩集』思潮社

江端義夫・加藤正信・本堂寛編（1998）『最新ひと目でわかる 全国方言一覧辞典』学研

三井はるみ監修（1998）『まんが方言なんでも事典』金の星社

杉本つとむ監修（1998）『クイズでわかる方言しらべ事典』学研

ハイパープレス（2000）『お国ことばのふしぎ大事典』青春出版社

佐藤亮一ほか編（2000）『NHK サービスセンターCD教材 日本の方言』学研

佐藤亮一編（2002）『都道府県別 全国方言小辞典』三省堂 ＊加藤が石川・福井の執筆を担当

佐藤亮一監修（2002）『お国ことばを知る方言の地図帳』小学館 ＊加藤も7人の共著者の一人

真田信治（2002）『方言の日本地図 ことばの旅』講談社＋α新書

国立国語研究所編（2003）『新「ことば」シリーズ 16 ことばの地域差―方言は今―』財務省印刷局

井上史雄・吉岡泰夫監修（2003・2004）『調べてみよう暮らしのことば』（全7巻）ゆまに書房

佐藤亮一監修・小学館辞典編集部編（2004）『標準語引き 日本方言辞典』小学館

※参考 WEB ページ

「ふるさと日本のことば」（<http://www.nhk.or.jp/a-room/kotoba/>）＊2000年4月から1年間、NHKで放送された47都道府県の方言の映像による記録の一部（音声付き）を見ることができます。

「ふるさとの方言」（<http://nlp.nagaokaut.ac.jp/hougen/>）＊全国のたくさんの方言 WEB ページを見ることができます。

「全国方言 WEB ほべりぐ」（<http://hougen.atok.com/>）＊各地の方言による文章作成を容易にした話し言葉対応辞書をおさめた ATOK を作成しているジャストシステムが運営しています。

日本学術振興会科学研究費補助金 基盤研究(C)
課題番号 17520295
研究成果報告書

現代方言の記述に基づく方言学習教材作成のための基礎的研究

研究代表者 金沢大学・教育学部教授 加藤 和夫
研究協力者 白山市立北辰中学校・教諭 越川 由美子

平成 17 (2005) 年度 700,000 円

日本学術振興会 科学研究費補助金 研究成果報告書

〈方言学習教材シリーズ 3〉

みんなで学ぼう！鶴来ことば

監修：加藤 和夫（金沢大学教授）

執筆：加藤 和夫

越川由美子（白山市立北辰中学校教諭）

2006（平成 18）年 3 月 31 日発行

非売品

連絡先：金沢大学教育学部国語教育講座（日本語学）

〒920-1192 石川県金沢市角間町

電話：076-264-5538 Fax：076-234-4101

E-mail：kkatoh@ed.kanazawa-u.ac.jp

URL：http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~kkatoh/

印刷・製本：田中昭文堂印刷株式会社